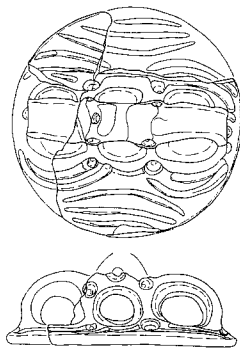


市原市文化財センター年報

平成3年度



山田橋亥の海道具塚出土の
蓋形土製品

財団法人 市原市文化財センター

序

当文化財センターの拠点を国分寺台に隣接する能満地区に移して2年目となる平成3年度は、国内の景気が下降し始め、文化財調査の事業活動も、こうした景気の影響を受け始めた時期でもありました。

さて、本年度の事業は、根田祇園原貝塚、安須別府台遺跡など対象面積が10,000㎡を越える3件の調査を含む確認調査が多く実施されました。また、発行した調査報告書も例年より多く内訳は7冊を数えました。このうち、山田橋表通遺跡や椎津茶ノ木遺跡などの成果は、特筆すべき内容をもっており、それらの報告書が、今後の調査研究に寄与するものと期待しております。また、これまで行われてきた史跡上総国分尼寺跡の調査は、史跡整備に伴う最後の調査を実施しました。今回は、金堂地区の調査で、東側回廊及び前庭部の燈籠設置部分と推定される遺構の検出など多くの成果がありました。今後は、市原市教育委員会による史跡整備事業に移行されることとなります。

また、本調査を行った南大広遺跡は、寺院跡であることが判明し、更に、上総国府推定地の確認調査では、初めて郡本地区にメスが入れられ、掘立柱建物跡などを確認しましたが、国衙として確定できる資料の発見までには到っておりません。当調査につきましては、市原市教育委員会の指導を受けながら、今後もひきつづき実施してゆく予定であります。

研究普及事業では、恒例となりました『遺跡発表会』を開催し、多くの方々の参加をいただきました。また、啓蒙普及パンフレットとして『私たちの文化財』第18号を発刊しております。

なお、本誌をお借りし、平成4年1月31日にご逝去された滝口先生には、市原市における埋蔵文化財の調査、研究に多大な功績を残されました。

ここに慎んで、哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

今後とも、研究普及活動を通じて埋蔵文化財の一層の公開を行う等、地域の歴史や文化の理解に資するよう努力を致す所存ですので、関係各位のご協力とご指導を賜ります様、宜しく願ひいたします。

平成7年11月15日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 佐野年男

目 次

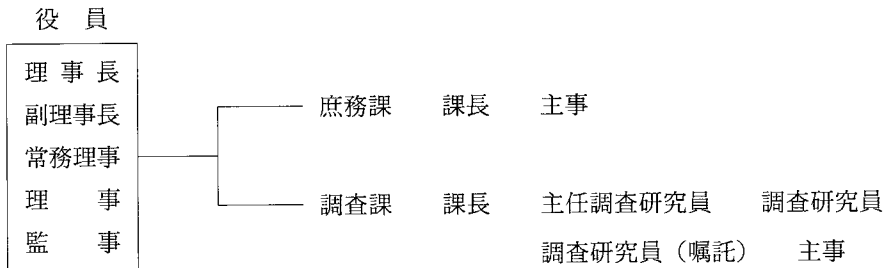
序

I 平成3年度の機構	1
II 平成3年度事業概要	2
III 平成3年度調査概要	6
1. 史跡上総国分尼寺跡	8
2. 山倉前畑遺跡	9
3. 六孫王原遺跡E区	9
4. 川在南障子遺跡B地点	10
5. 土字下原遺跡	11
6. 高滝柏野遺跡	11
7. 安須別府台遺跡	12
8. 古甲遺跡	14
9. 能満南大広遺跡(B地区)	19
10. 山田橋表通遺跡(亥の海道貝塚)	20
11. 六孫王原遺跡C区	22
12. 能満分区遺跡群	23
13. 根田祇園原貝塚	24
14. 南名山遺跡	26
15. 喜多仲台遺跡	27
IV 平成3年度受贈図書一覧	28

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員及び職員から構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、理事、監事をもって構成され、平成3年度の職員は、事務職員4名（内市都市公社出向職員1名）、技術職員11名（内市事務従事職員9名）であり、その組織及び氏名は以下のとおりである。

1. 組 織



2. 役 員

職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	市原市教育委員会教育長	星野 一郎
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	斉藤 崇雄
常務理事	専 任	淵本 献司
理 事	早稲田大学名誉教授	滝口 宏 <small>4.1.31 逝去</small>
理 事	和洋女子大学教授	寺村 光晴
理 事	姉 埴 神 社 宮 司	海上 信久
理 事	市原市企画部長	根本正夫 <small>3.10.10まで 佐野年男 3.10.11より</small>
理 事	市原市総務部長	露崎 繁
理 事	市原市財務部長	石井作二
理 事	市原市都市計画部長	佐野年男 <small>3.10.10まで 田中俊夫 3.10.11より</small>
監 事	市原市会計課長	佐久間章
監 事	市原市教育委員会総務課長	小宮 仁

3. 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富
	主 事	大 鐘 光 江
	主 事	永 野 健 一
調査課	課 長	矢 戸 三 男
	主任調査研究員	田 中 清 美
	主任調査研究員	浅 利 幸 一
	調査研究員	大 村 直
	調査研究員	
調査課	調査研究員	近 藤 敏
	調査研究員	高 橋 康 男
	調査研究員	木 對 和 紀
	調査研究員	忍 澤 成 視
	調査研究員	田 中 茂 良
	調査研究員（囑託）	半 田 堅 三
主 事	高 浦 貞 子	

II 平成3年度事業概要

1. 理事会の開催

平成3年度の理事会は、次のとおりに開催された。

- (1) 第1回理事会 平成3年5月27日
 議案第1号 平成2年度事業報告について
 議案第2号 平成2年度収入支出決算について
- (2) 第2回理事会 平成3年11月25日
 議案第1号 平成3年度事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成3年度補正予算(第1号)について
- (3) 第3回理事会 平成4年3月30日
 議案第1号 平成3年度事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成3年度補正予算(第2号)について
 議案第3号 平成4年度事業年度事業計画について
 議案第4号 平成4年度収入支出予算について

2. 会計監査

平成3事業年度の会計監査は、平成4年5月19日財団法人市原市文化財センター事務所において、高橋 孝、青柳四郎治 両幹事により実施された。

3. 平成3事業年度受託事業

(単位：円)

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺跡名	種別	面積・数量	事業内容	契約年月日	完了年月日	受託金額
1	新規	史跡上総国分尼寺跡環境整備に伴う確認調査	市原市 (文化課)	上総国分尼寺	寺院跡	400㎡	確認調査	平成3年9月27日	平成4年2月20日	8,489,260
2	継続	国分寺台遺跡群発掘調査に係る基礎整理	市原市 (文化課)	天神台遺跡ほか	集落跡ほか		基礎整理	平成3年7月15日	平成4年3月31日	10,000,000
3	新規	市内遺跡発掘調査	市原市 (文化課)	市内遺跡	包蔵地	448㎡	確認調査 本調査 整理	平成3年5月23日	平成4年3月10日	5,911,413
4	新規	不特定遺跡発掘調査	市原市 (文化課)	安須別府台B地点	包蔵地	5,000㎡	確認調査 本調査	平成3年8月30日	平成4年2月25日	1,898,073
5	継続	上総国府推定地確認調査	市原市 (文化課)	古甲	国府跡	300㎡	確認調査	平成4年1月30日	平成4年3月31日	4,999,620
6	継続	市道161号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	新堀叶台	集落跡	1,700㎡	整理 報告書刊行	平成3年4月1日	平成4年3月30日	8,184,380

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺跡名	種別	面積・数量	事業内容	契約年月日	完了年月日	受託金額
7	新規	市道119号線改良 工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	奈良大仏台	集落跡	8,000㎡	整理 報告書刊行	平成3年9月27日	平成4年3月31日	3,302,180
8	新規	浄水場管理用道路 建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (水道建設課)	大和田柏野	包蔵地	1,281㎡	確認調査	平成3年10月28日	平成4年3月5日	2,269,090
9	継続	砂防調査委託 (文化財調査委託)	千葉県 (市原土木事務所)	潤井戸 小谷1号墳	古墳	古墳1基	整理 報告書刊行	平成3年10月31日	平成4年3月31日	1,921,980
10	継続	ガソリンスタンド (草刈地区)建設に 伴う埋蔵文化財調査	三井石油㈱	草刈尾梨	集落跡	450㎡	整理 報告書刊行	平成2年11月22日	平成4年3月31日	2,442,649
11	継続	ガソリンスタンド (山田橋地区)建設に 伴う埋蔵文化財調査	日本石油㈱	山田橋表通	貝塚 集落跡 ほか	1,862㎡	本調査 整理 報告書刊行	平成3年2月28日	平成4年3月31日	27,459,995
12	継続	宅地造成(権津地区) に伴う埋蔵文化財調査	千葉ホーム㈱	権津茶ノ木	集落跡	2,639㎡	整理 報告書刊行	平成2年1月4日	平成4年3月31日	11,846,314
13	継続	マンション建設に伴 う埋蔵文化財調査	ダイア建設㈱	六孫王原 (C地区)	集落跡	1,000㎡	本調査	平成3年4月16日	平成4年2月24日	6,826,425
14	継続	市道166号線改良 工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	能満遺跡群	集落跡	857㎡	本調査	平成3年7月19日	平成4年2月20日	10,728,480
15	継続	市原ゴルフ倶楽部 増設に伴う埋蔵文化財調査	サンヨー食品㈱	泰免上原台	古墳 集落跡	69,000㎡	報告書刊行	平成元年4月1日	平成4年2月19日	5,673,241
16-a	新規	宅地造成(東四辻地区) に伴う埋蔵文化財調査	井原正 井原よし江	南大広 (B地区)	集落跡	2,073㎡	確認調査	平成3年4月10日	平成4年2月19日	1,340,730
16-b	新規	宅地造成(東四辻地区) に伴う埋蔵文化財調査	井原正 井原よし江	南大広 (B地区)	寺院跡	800㎡	本調査	平成3年5月29日	平成4年2月19日	4,067,116
17	新規	ゴルフ練習場造成 (安須地区)に伴う埋蔵文化財調査	泉水建材㈱	安須別府台	包蔵地	18,000㎡	確認調査	平成3年7月1日	平成4年2月24日	5,960,208
18-a	新規	市道6018号線改良 工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	南名山	包蔵地	1,890㎡	確認調査	平成3年9月19日	平成4年2月20日	3,297,030
18-b	新規	市道6018号線改良 工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	南名山	包蔵地	1,890㎡	本調査	平成3年10月11日	平成4年2月20日	3,653,410
19	新規	国分寺中央公園整備 に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (公園緑地課)	祇園原貝塚	寺院跡	14,800㎡	本調査 確認調査	平成3年9月27日	平成4年3月9日	29,956,520
20	新規	東林寺墓地造成に 伴う埋蔵文化財調査	曹洞宗 東林寺	土宇下原	包蔵地	13,090㎡	確認調査	平成4年1月30日	平成4年3月31日	7,520,030
21	新規	市道48号線改良工 事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	喜多仲台	包蔵地	14,200㎡	確認調査	平成4年1月28日	平成4年3月31日	16,527,380
合 計										183,975,524

4. 研究事業

① 職員研修会

平成3年10月19日 於 千葉県立上総博物館

② 外部研修への参加

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修

平成3年9月19日～20日 於 奈良県奈良市

関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修会

平成3年10月31日～11月1日 於 東京都大島町

5. 印刷物の刊行

報告書

「新堀叶台遺跡」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第44集
「奈良大仏台遺跡」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第47集
「潤井戸小谷1号墳」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第45集
「草刈尾梨遺跡」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第46集
「山田橋表通遺跡」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第48集
「椎津茶ノ木遺跡」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第49集
「奉免上原台遺跡」	財団法人市原市文化財センター調査報告書第43集

6. 普及活動

① 遺跡発表会

平成4年3月20日 於 市原市五井会館

平成3年度発掘調査成果の発表 担当職員

平成4年1月12日 於 東金文化会館

千葉県文化財法人連絡協議会遺跡調査研究発表会

② 印刷物の刊行

「私たちの文化財」18号

7. 平成3年度決算報告

(1) 平成2年度

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	400,000	-	400,000	709,176	309,176	
事業収入	399,155,000	△ 146,930,000	252,225,000	248,168,902	△ 4,056,098	
雑収入	1,116,000	-	1,116,000	11,440,549	10,324,549	
当期収入合計	400,671,000	△ 146,930,000	253,741,000	260,318,627	6,577,627	
前期繰越収支差額	11,683,000	13,318,000	25,001,000	25,001,075	75	
収入合計	412,354,000	△ 133,612,000	278,742,000	285,319,702	6,577,702	

支出の部

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受託事業費	359,986,000	△ 135,697,000	223,289,000	221,210,435	△ 2,078,565	
研究事業費	2,873,000	-	2,873,000	1,595,579	△ 1,277,421	
普及事業費	9,910,000	△ 844,000	3,066,000	1,481,737	△ 1,584,263	
一般管理費	19,154,000	△ 1,000,000	18,154,000	14,056,065	△ 4,097,935	
固定資産取得支出	1,030,000	-	1,030,000	1,320,460	290,460	
財政調整基金積立預金支出	9,284,000	△ 5,668,000	2,616,000	3,701,129	1,085,129	
消費税支出	2,394,000	△ 881,000	1,513,000	1,463,200	△ 49,800	
予備費	9,090,000	△ 3,090,000	0	-	-	
当期支出合計	399,721,000	△ 147,180,000	252,541,000	244,828,605	△ 7,712,395	
当期収支差額	950,000	250,000	1,200,000	15,490,022	14,290,022	
次期繰越収支差額	12,633,000	13,568,000	26,201,000	40,491,097	14,290,097	

(2) 平成3年度

収入の部

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	400,000	304,000	704,000	704,547	547	
事業収入	329,250,000	△ 136,039,000	188,211,000	184,344,014	△ 3,866,986	
雑収入	1,118,000	6,748,000	7,866,000	8,967,634	1,101,634	
当期収入合計	329,768,000	△ 128,987,000	196,781,000	194,016,195	△ 2,764,805	
前期繰越収支差額	26,201,000	14,290,000	40,491,000	40,491,097	97	
収入合計	351,969,000	△ 114,697,000	237,272,000	234,507,292	△ 2,764,708	

支出の部

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受託事業費	286,805,000	△ 121,588,000	165,217,000	168,165,036	2,948,036	
研究事業費	2,873,000	△ 2,188,000	685,000	628,121	△ 56,879	
普及事業費	9,910,000	△ 1,352,000	2,558,000	2,473,483	△ 84,517	
一般管理費	19,866,000	△ 4,576,000	15,290,000	11,611,034	△ 3,678,966	
消費税支出	1,945,000	△ 816,000	1,129,000	1,106,000	△ 23,000	
固定資産取得支出	1,000,000	-	1,000,000	0	△ 1,000,000	
財政調整基金積立預金支出	9,969,000	302,000	5,271,000	5,406,093	135,093	
退職給与引当預金支出	-	1,630,000	1,630,000	1,630,000	0	
予備費	3,000,000	△ 3,000,000	0	-	-	
当期支出合計	329,368,000	△ 131,588,000	192,780,000	191,019,767	△ 1,760,233	
当期収支差額	1,400,000	2,601,000	4,001,000	2,996,428	△ 1,004,572	
次期繰越収支差額	27,601,000	16,891,000	44,492,000	43,487,525	△ 1,004,475	

Ⅲ 平成3年度調査概要

平成3年度の受託事業は、発掘調査、整理事業を含め21事業を実施した。事業別の内訳は、本調査が4事業、確認調査～本調査が2事業、確認調査が8事業、整理～報告書刊行が7事業であり、他に国分寺台遺跡群の基礎整理が行なわれた。

本年度は、確認調査が比較的多く、安須別府台遺跡（弥生時代から古墳時代の集落）、土宇下原遺跡（古墳時代を中心とする重複する竪穴住居跡群）、喜多仲台遺跡（奈良～平安時代の集落）など対象地が10,000㎡を越える調査が実施されている。また、発刊した報告書も多く、奉免上原台遺跡、椎津茶ノ木遺跡、山田橋表通遺跡、新堀叶台遺跡など7冊を数える。

本調査については、縄文時代では、山田橋表通遺跡で縄文時代後期の竪穴住居跡の貝層が調査され、貝層より検出した魚骨、獣骨などから当時の食生活・生態系の復元が可能となっている。また能満遺跡群では、中期の小竪穴、後期の住居跡など、更に、根田祇園原貝塚でも後期の竪穴住居跡や貝層が調査され、また、上総国分尼寺跡の外郭溝の検出もあり、一部は都市公園に含まれ、現状保存がなされている。

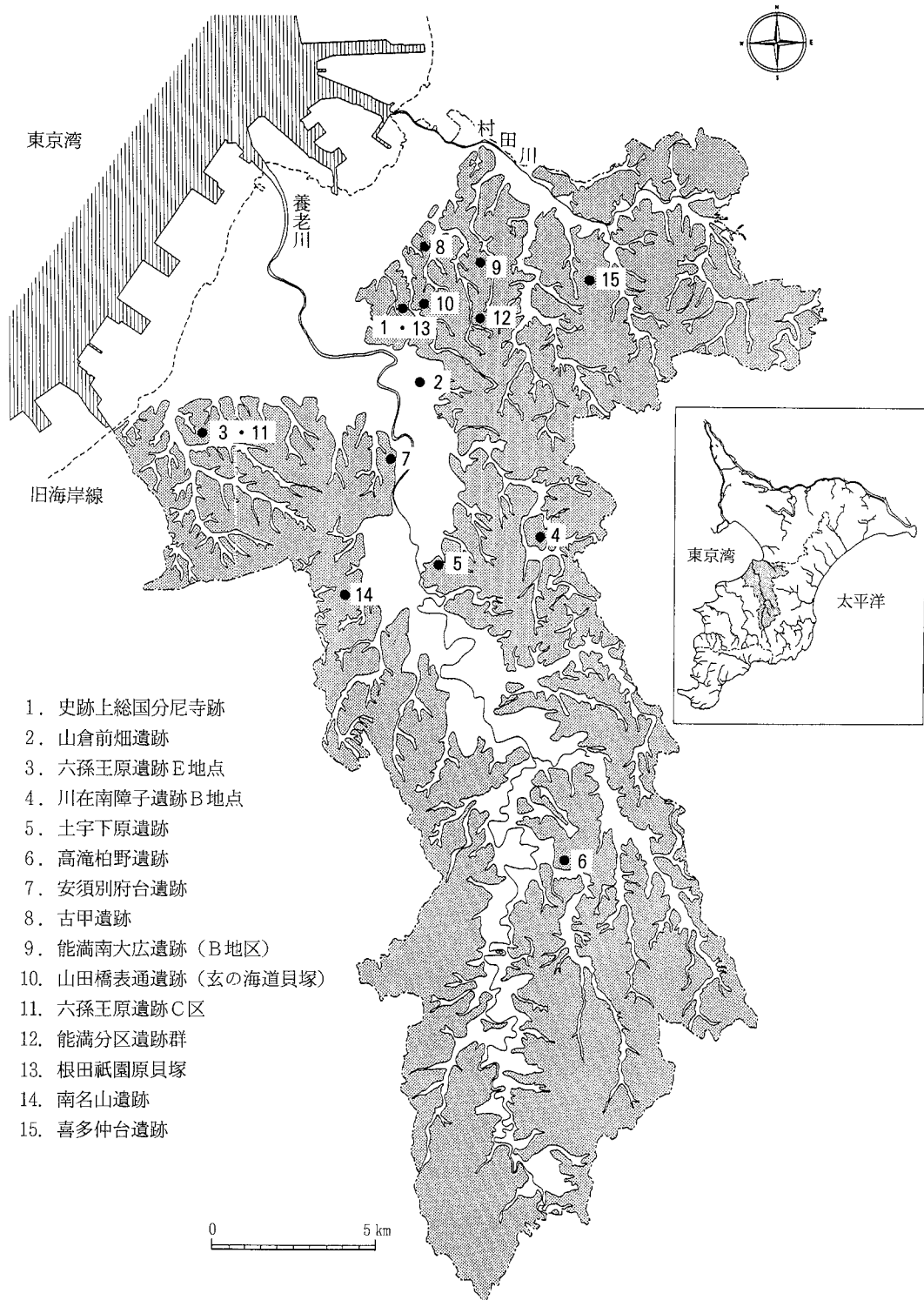
弥生時代では、上総国分寺台遺跡群の基礎整理事業において、天神台遺跡より船の絵を線刻で描いた弥生時代後期末頃の土器が発見され、この時期のものとしては全国で8例目となり大きな話題を呼んだ。また、部分的な調査ながら、中期から古墳時代前期にいたる集落や墳墓跡として注目される六孫王原遺跡の調査も実施されている。

古墳時代では、発掘調査自体では時に大きな成果はみられないが、刊行した報告書の中で、新堀叶台遺跡の重複する竪穴住居跡の様相の考察や主軸長40m以上の前方後円墳潤井戸小谷1号墳から出土した車輪形のアテ目をもった須恵器大甕や市内円筒埴輪の集成は注目される。また、濠で囲まれたいわゆる巨館跡を検出した草刈尾梨遺跡や、多くの古墳、方形周溝状遺構を検出した奉免上原台遺跡の発刊も重要であり、更に、椎津茶ノ木遺跡で研究された主に古墳時代中期から奈良時代にいたる土器編年は、大変な労作である。

奈良・平安時代は、史跡上総国分尼寺跡の史跡の整備に伴ない金堂地区の確認調査が実施され、北面中央階段や東側回廊及び前庭部燈籠設置部分が調査された。また、須彌壇については、確実な資料は得られなかった。

上総国府跡推定地の調査は、本年度より郡本地区を実施し、古甲遺跡からは掘立柱建物跡などを検出しているが、国府として確定のできる遺構、遺物は発見されていない。

また、能満南大広遺跡では、以前の調査（昭和43年）で製鉄跡や「寺」名の墨書土器が検出され、上総国分寺との関連遺跡として注目されていたが、基壇の調査などより、当遺跡自体が寺院跡のひとつであることが判明した。



1. 史跡上総国分尼寺跡
2. 山倉前畑遺跡
3. 六孫王原遺跡E地点
4. 川在南障子遺跡B地点
5. 土字下原遺跡
6. 高滝柏野遺跡
7. 安須別府台遺跡
8. 古甲遺跡
9. 能満南大広遺跡 (B地区)
10. 山田橋表通遺跡 (玄の海道貝塚)
11. 六孫王原遺跡C区
12. 能満分区遺跡群
13. 根田祇園原貝塚
14. 南名山遺跡
15. 喜多仲台遺跡

平成3年度 調査遺跡位置図

1. 史跡上総国分尼寺跡

事業名 史跡上総国分尼寺跡確認調査

所在地 市原市国分寺台区画整理事業地内第1工区第101街区

調査期間 平成3年10月1日～平成3年12月26日

調査面積 400㎡

調査概要 上総国分尼寺跡の史跡整備に伴う調査は、今回が最後の調査であった。調査地点は、主として金堂院の基壇部分及びその周辺の一部確認調査である。その内容は、金堂基壇北面中央階段、金堂須彌壇、金堂前庭の燈籠の3点についての有無等の確認、北面東回廊の位置等の確認である。

金堂基壇北面中央階段については、 $3 \times 4.5\text{m}$ の大きさのトレンチを設定し、基壇北面中央部において瓦片を多数検出した。最終段階には金堂と講堂をつなぐ瓦敷き通路が金堂に向けてせり上がるように取り付いていた状況が推定されるが、当初は階段であったかどうかの確認は得られなかった。

須彌壇についても、基壇面が削平されていたため、確認は得られなかった。しかし、金堂の礎石抜取穴を2ヵ所で確認している。

前庭燈籠については、前回までの調査で検出していた中央瓦敷き通路の一部分が $9 \times 1.5\text{m}$ のトレンチの南側で認められる一方、燈籠設置予想地点でそれらの瓦が減少しており、その部分にサブトレンチを設定したところ、瓦敷きの面から約28cm下位で最大径約165cmのほぼ円形と推定される底に瓦を敷いた遺構を検出した。この遺構が燈籠設置痕跡ではないかと考えられる。また、この遺構より中心が南へ約130cmずれた地点で、径約55cmのピットが存在した。土層観察より、瓦敷きの遺構より古く、これが一時期前に燈籠を据えた穴の可能性もある。

北面東回廊については、回廊の柱想定位置2ヵ所で礎石据付跡を確認し、そのうち1ヵ所には礎石が残存していた。

(田中清美)



燈籠設置予想地点の瓦敷き



北面東回廊の礎石残存状況

2. 山倉前畑遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市山倉字前畑475-5

調査期間 平成3年5月28日～平成3年5月30日（確認調査）
平成3年5月31日～平成3年6月7日（本調査）

調査面積 331.1㎡のうち35㎡（確認調査）、30㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、養老川右岸の段丘上に立地する。近接する調査遺跡としては、池ノ谷遺跡があり、昭和58年度には、井戸跡などから平安時代を中心とする遺物の出土をみている。

確認調査では、堅穴住居跡1軒の他、溝などが検出されたが、このうち堅穴住居跡について本調査へ移行した。住居跡は、一辺約3.8mを測る平面方形の堅穴であり、出土した土器から、古墳時代終末期の所産と推定される。

すでに、報告書が刊行されており、詳細は下記文献によられたし。 (大村 直)

高橋康男 「平成3年度市原市内遺跡発掘調査報告」市原市教育委員会 1992年

3. 六孫王原遺跡E地区

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市姉崎字毛尻3220-10

調査期間 平成3年8月16日～平成3年8月30日

調査面積 1,000㎡のうち100㎡

調査概要 六孫王原遺跡は、隣接する毛尻遺跡を含め、過去数次の調査が実施されてきた。今回の調査区は、A・B地区のほぼ中間地域にあたる。過去の調査では、毛尻遺跡において、弥生時代後期の方形周溝墓群が、D地区では弥生時代中期の方形周溝墓群が、また、A地区では弥生時代後期から古墳時代にかけての堅穴住居跡群などが検出されている。

調査は、ほぼ南北方向に6本のトレンチを設定し実施した。調査の結果、他地点と比較して、遺構の遺存状態が比較的良好であり、各トレンチから、総数14軒の堅穴住居跡が検出された。これらは、弥生時代後期から終末期を中心とする推定され、A地区から連続する居住域が、さらに展開することが明らかとなった。

すでに、報告書が刊行されており、詳細は下記文献によられたし。 (大村 直)

高橋康男 「平成3年度市原市内遺跡発掘調査報告」市原市教育委員会 1992年

4. 川 在 南 障 子 遺 跡 B 地 点

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市川在字南障子574-3、573-3

調査期間 平成3年7月17日～平成3年7月24日（確認調査）

平成3年7月25日～平成3年8月12日（本調査）

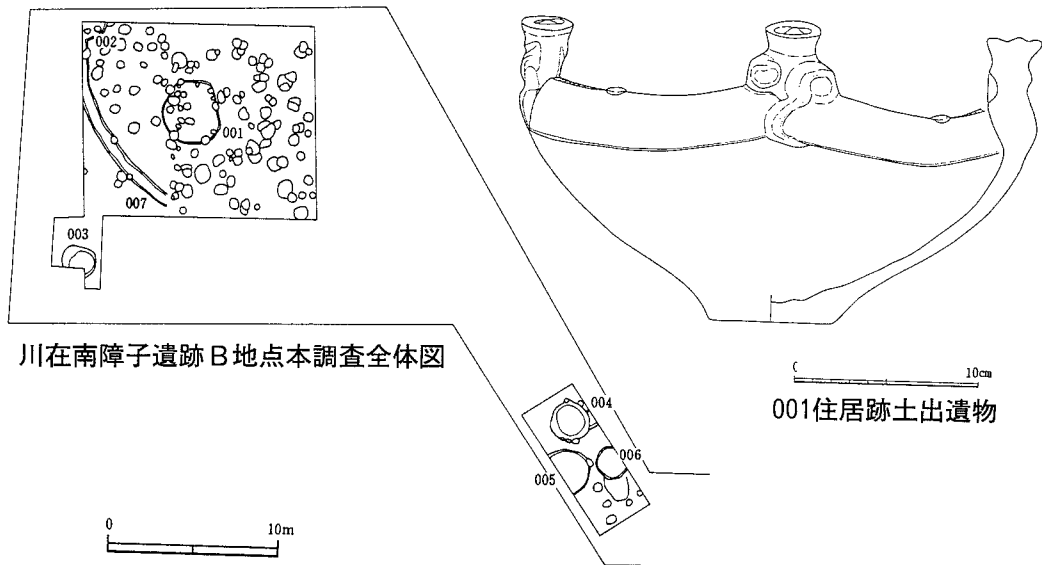
調査面積 665㎡のうち66㎡（確認調査）、217㎡（本調査）

調査概要 調査区は、昭和63年度に調査を実施した川在南障子遺跡（A地点）と同一台地上に立地する。

調査は、対象面積の10%について確認調査を実施した後、工事影響範囲についてのみ本調査へ移行した。調査の結果、加曽利B式を中心とし、縄文時代中期中葉から後期後葉にかけての多量の土器とともに、同期の竪穴住居跡2軒、小竪穴4基、そして多数の柱穴状のピット群が検出された。竪穴住居については、加曽利B式期の所産と考えられる。また、ピット群については、1棟の掘立柱建物を含むが、調査範囲が限られていたこともあり、同遺構がさらに存在する可能性が高い。

すでに、報告書が刊行されており、詳細は下記文献によられたし。 （大村 直）

高橋康男 「平成3年度市原市内遺跡発掘調査報告」市原市教育委員会 1992年



5. 土 宇 下 原 遺 跡

事業名 東林寺墓地造成に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市土宇字下ノ原1,106番地他

調査期間 平成4年2月4日～平成4年3月25日

調査面積 13,090㎡のうち1,310㎡

調査概要 遺跡は、養老川中流域右岸の沖積地に接する、標高38m前後の舌状を呈する河岸段丘上に立地している。昭和61年には、今回の調査区の南側で、小規模ながら発掘調査がおこなわれ、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒、古墳時代後期の竪穴住居跡2軒、中近世の火葬墓などが検出されている。

調査の結果、すべてのトレンチより、弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴住居跡を主体とし、中近世の土壌等をふくむ遺構群が広範囲にわたり重層的に検出された。今回の調査では、個々の遺構範囲および新旧関係については確認することはできなかったが、遺構数は、トレンチ範囲内でもおよそ200基以上にのぼることが推定される。

市原市域では、弥生時代後期において、谷奥にいたる爆発的な集落の増加が認められるが、とくに東京湾岸から養老川、村田川に直接面する台地上では、その後古墳時代後期以降の集落が重複し、きわめて重層的な遺跡を形成する場合が多い。本遺跡もその一例としてとらえられる。

（大村 直）

近藤 敏 「土宇下原遺跡」『市原市文化財センター年報昭和60年度』 1986年

6. 高 滝 柏 野 遺 跡

事業名 浄水場管理用道路建設に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市高滝895-41番地他

調査期間 平成3年11月1日～平成3年11月15日

調査面積 1,281㎡のうち128㎡

調査概要 遺跡は、養老川上流域、現高滝ダム湖の右岸の、標高85～92mを測る台地上に立地する。調査対象は、総延長約280mを測るものの、おもに現道の拡幅部分を中心とし、調査区としてはきわめて限定されている。

調査の結果、明確に遺構と判断されるものはなく、数点の縄文土器と礫、剥片を検出するにとどまった。礫、剥片については、ローム漸移層より出土したため、一部深掘を実施したが、分布を認めることはできなかった。

（大村 直）

7. 安須別府台遺跡

事業名 ゴルフ練習場造成に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市安須字別府台926-1他

調査期間 平成3年7月22日～平成3年9月20日

調査面積 23,000㎡のうち2,300㎡

調査概要 安須別府台遺跡は、養老川の下流域平野が始まる左岸台地（姉崎台地の北東端）上に位置する。遺跡のすぐ東側は、養老川によって形成された崖状（比高差40m）を呈し、立地的には養老川中・下流域を一望できる好適地に位置している。

遺跡はこの台地上の平坦部分全域に広がっており、現状は畑地で、調査前から縄文・弥生土器・土師器片等が散布していた。また、遺跡の東側は、養老川に面した縁辺部にそって径38mを最大規模とする円墳26基からなる安須古墳群が所在する。

今回の調査は、ゴルフ練習場造成に伴う事前の確認調査で、23,000㎡を調査対象とした。

なお、このうち5,000㎡については県費補助の不特定遺跡発掘事業の対象地区とした。

調査は、公共座標上に、主に2×4mのグリッドを10m間隔で設定し、対象面積の約10%にあたる2,300㎡を発掘した。

調査の結果、縄文時代の土坑5基、早期の住居跡5軒、弥生時代後期住居跡13軒、古墳時代前期住居跡8軒、円墳2基、方墳23基、中世頃頃の溝3条を確認した。遺物については、縄文土器片（稲荷台期・諸磯期）、弥生土器（後期）、土師器（古墳時代初頭・後期）、須恵器等

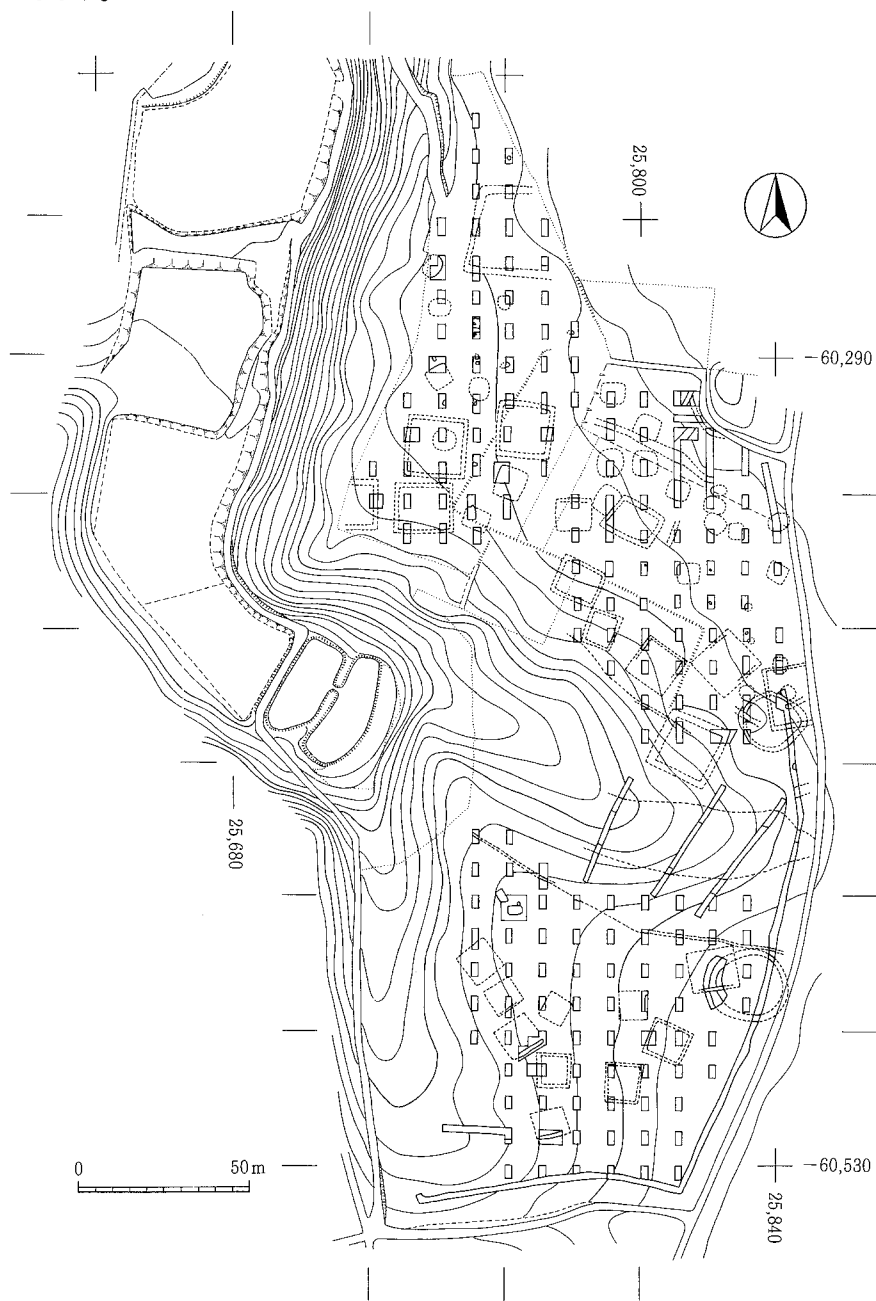


調査地区地形図

が出土した。

以上のように、今回は遺跡の性格を確認したのみであるが、安須別府台遺跡は、対象地全域にわたり縄文時代から古墳時代までの集落遺跡と古墳群の複合遺跡であり、特に古墳群については周溝形態から後期と考えられ、隣接の安須古墳群の時期・性格を検討する上での資料となることであろう。

(小出紳夫)



8. 古^{ふる} 甲^{こう} 遺 跡

事業名 上総国府推定地確認調査

所在地 市原市門前2丁目57、64 郡本2丁目350-2

調査期間 平成4年2月1日～平成4年2月29日

調査面積 300㎡

調査概要 上総国府の位置については、いまだ確定するにいたっておらず、それを台地上に求める市原説・郡本説・能満説・低地に求める村上説が併存する状況にある。市原市教育委員会ではこれまでも郡本周辺地域の踏査（平成元年度）、村上地区における確認調査（平成元年度、同2年度）を実施してきたところであるが、いずれにおいても有力な手掛かりを得るには至っていない。ただし、村上地区においては、東関東自動車道の建設に先行して、千葉県文化財センターによる調査が実施されており、奈良・平安時代の掘立柱建物群の存在が明らかになっている。この遺跡の性格については、現在も調査が進行中という状況もあって、多分に流動的ではあるが、少なくとも国府を構成する建物群としての位置づけはなされていない。

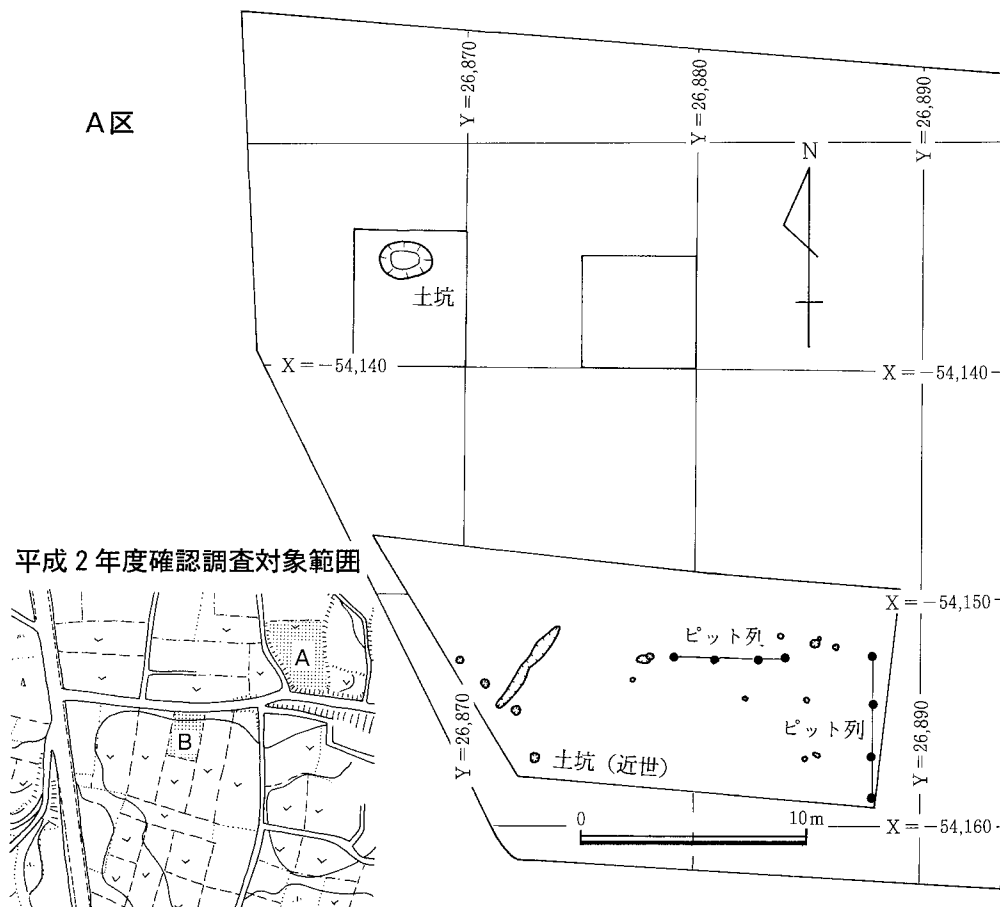
上に述べたような状況をふまえて、今年度は台地上の調査を実施するところとなった。調査箇所として選定されたのは、昭和40年に滝口宏・平野元三郎両氏を中心に調査が行われた、現在郡本在住の岡本博夫氏所有の畑部分（門前2丁目57、64）と、踏査の結果大量の遺物の散布が認められた、郡本字竹の内地区のうち市街路課所有部分（郡本2丁目350-2）の2か所であった。この岡本氏所有の畑を含む一帯は小字を古甲と言い、「古国府」の転訛したものともいわれているものである。現段階で「ふるこう」という音をもつ字名は、ほかに「古光」があり、同一台地の東縁に南北ほぼ500mにわたって散見される。

岡本氏の畑部分（A区とする）については、昭和40年の調査において、同部分西側の切り通し道の断面に基壇と考えられる盛土の断面が露出していたとを受けての調査であり、その際には、南北方向の基壇の痕跡が検出されるに至っているが、国府に伴う物との位置づけにはいたっていない。その後、当該部分を含めて土砂採取が行われ、この「盛土」部分を含む一帯は削平されて今日に至っている。この削平はハードローム上面で止まるものと推測され「基壇」は消滅していても地業の痕跡が認められる可能性を残していた。

街路課所有部分（B区とする）については、遺物の散布が広く認められる地区の一角を占めるものであるが、耕作物が存在するところから、面積的には狭小とならざるを得ないが、遺構の検出・出土遺物の採取等により、遺跡の時期さらには性格等について、認識を深めることを可能にするものと意義づけられる。これら調査区の調査と平行して、周辺の踏査を行い、遺物の散布状況等について再度検討することとした。



上総国府推定地（郡本地区）と周辺の主な遺跡（S = 1 / 25000）



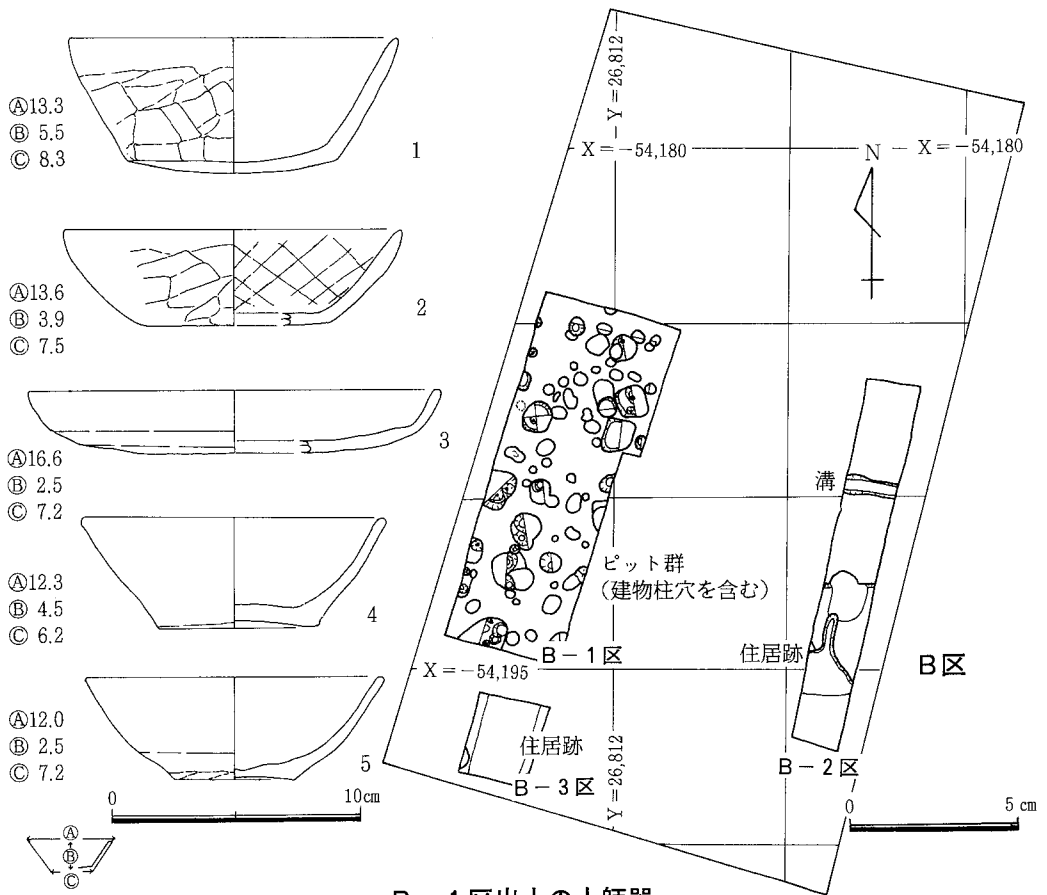
A区の調査結果 約250㎡について調査をおこなった。耕作土は約15cmの厚さであり、その下層は直ちにハードロームとなった。昭和40年調査の痕跡は確認できなかった。また、地業を思わせる痕跡も検出されなかった。

一方で、調査区南西隅近くで、近世の所産と思われるすり鉢、急須を伴う土坑が1基検出された。調査区北東のグリッドにおいては、平面形が楕円を呈する浅い土坑が1基検出され、覆土中からは奈良・平安時代の土器片が出土した。なお、時期不明ではあるが、調査区の東南部分では、直径20cm前後の小ピットが検出され、それらの内には、一直線上に並ぶと判断しうるものが2組認められた。これら2組については、それぞれ東西・南北にはほぼ直行して並ぶものであるのが、両者が接続して、コーナーを形作るものとは考え難い。

予想された基壇の痕跡の検出にいたらなかったことは、昭和40年段階の調査成果の再検討を要請するものである。幸い、切り通し西側の畑部分に関しては、削平を免れているので、この部分について再度調査を行う必要があると考えられる。

B区の調査結果 50㎡の調査にとどまった。東側のトレンチでは、住居跡が検出された。良好な遺物の伴出はなく、覆土から奈良・平安時代の土器片が出土している。なお、カマドについては、焼土・粘土等の散布状況から、それと思われる部分を確認するにとどめ、切断はしていない。西側のトレンチでは、ピット群が検出された。これら一部については、半切し、土層の観察を行った結果、建物の柱痕跡が認められるものが存在する。ただし、それらの有機的関係については、現状においては保留せざるをえない部分が多い。このトレンチ南側に設定したグリッドにおいては、耕作土直下の硬化面の下から住居の床面が検出された。東西の両壁際に設定したサブトレンチのみでの検出であり、詳細は不明である。なお、東のサブトレンチの南端で検出されたピットの脇からは、礫が出土している。

本調査区からは多くの土器片・鉄滓が出土しており、瓦・緑釉陶器・灰釉陶器の破片も認められた。詳細な検討は今後に委ねざるをえないが、現場調査時の判断では、奈良時代後半から平安時代前半にかけての遺物を主とするものである。また、須恵器の出土が比較的目的につくことも、一つの特徴として指摘しうる。



B-1区出土の土師器

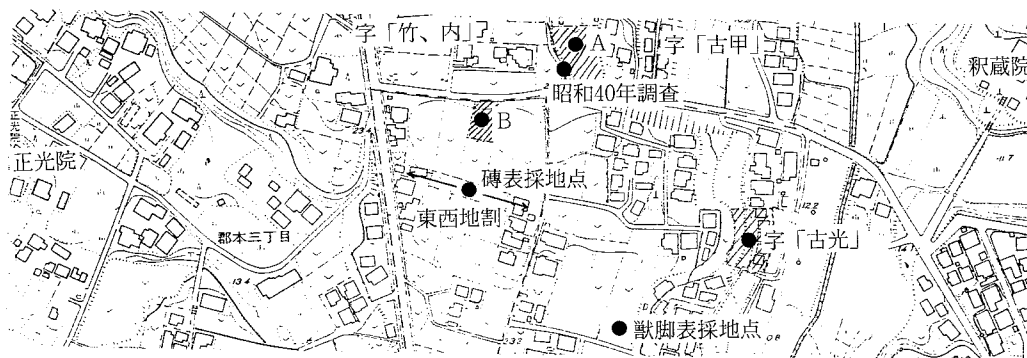
その他の検討 現場調査と平行して、周辺の踏査を行い、遺物の散在状況等の把握に努め、その結果、土師質の獣脚および磚が表面採集された。ほかにも土師器・須恵器・陶器・瓦がおもに郡本字竹の内・鼠塚地区の畑で採集された。今回の調査区を含めた一带に遺跡が存在していることは間違いないと判断される。遺跡の性格に関しては明確な根拠を欠くが、時期的には平安時代を中心とするものと考えられる。獣脚・瓦・磚などは一般の集落に伴うものとは考えがたく、その遺跡の性格をある程度反映するものであろう。これらの遺物の本来の帰属施設を明らかにすることがもめられる。

また、周辺の地割りに関して地籍図を検討したところ、郡本2丁目346を含む東西方向の地割りの存在が確認された。当該部分をはさんだ南北の畑は、南北方向に長い地割りであるのにたいして、この部分のみが、東西方向に長い地割りとなっている。何からの区画あるいは道の痕跡の可能性はある。

総括 — 今後の課題 —

今回の調査により、昭和40年の調査により検出された「基壇」について、再検討する必要性が生じた。一方で、掘立柱建物を伴う遺跡の一部が検出され、また、一般集落とは性格を異にする遺跡の存在の可能性が、遺物の様相から指摘しうる。したがって、今回の調査により得られた資料は、本地区の国府推定地としての位置づけを補強する物であってもけっして、その有力な比定地としての地位を低下せしめるものではない。

今後の課題としては、切り通し西側における「基壇」の再検討、東西地割り部分の調査等が要請されるところであろう。宅地化の進行が予想される現状において、畑地が比較的広く残されているうちに、調査を進めておく必要がある。（高橋康男）



調査区周辺の字名と東西地割り

のう まん みなみ おお ひろ
9. 能満南大広遺跡 (B地区)

事業名 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 (確認調査・本調査)

所在地 市原市能満字東四辻1,871-6

調査期間 平成3年4月22日～平成3年5月10日 (確認調査)

平成3年6月13日～平成3年7月12日 (本調査)

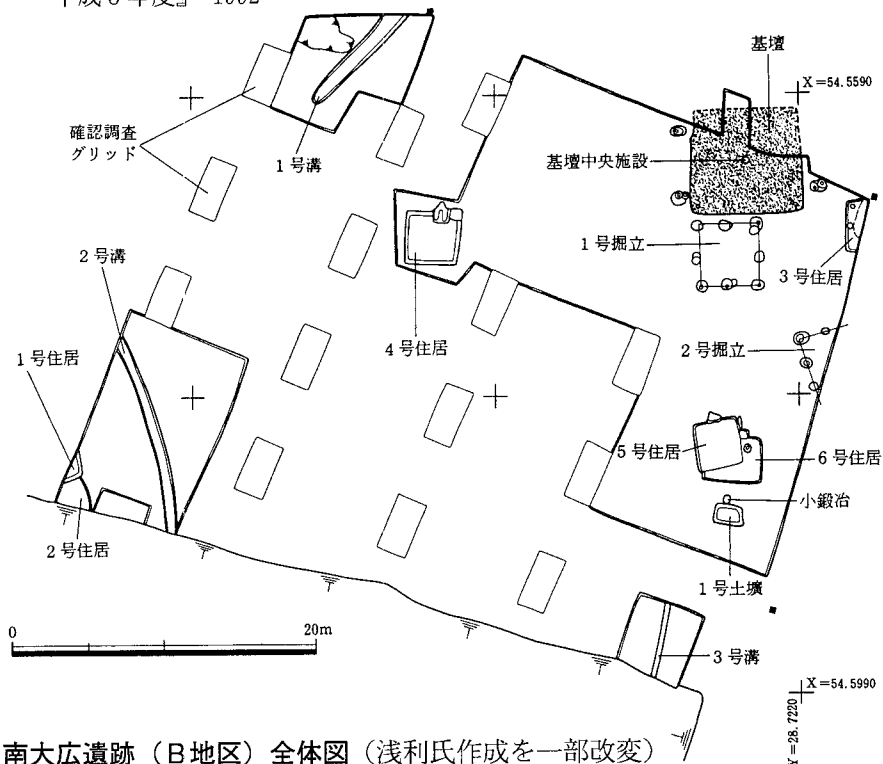
調査面積 確認調査2,073㎡のうち207㎡、本調査800㎡

調査概要 当遺跡は、昭和42年に一部の調査が実施され、上総国分寺に関連する遺跡と推定されていた。(市毛勲他「南大広遺跡・海保古墳群」1968. 市原市教育委員会)

今回の調査では、古墳時代後期の溝1条、奈良、平安時代の竪穴住居跡5軒、溝2条、掘立柱建物跡2棟、方形基壇1基、小鍛冶跡1基などが検出された。出土遺物は、布目瓦、緑釉小瓶片、蕨手太刀、刀子、鉄滓、須恵器、土師器などである。検出した方形基壇は、全体の2/3程度の調査であったが、確認面での規模は、南北8m、東西7.4mを測り、やや南北に長い方形を呈する。また、基壇の中央に蕨手太刀、南西と南東隅に刀子を埋納した穴がそれぞれ確認され、南大広遺跡は、寺院跡であることが判明した。(註1) (田中清美)

(註1) 浅利幸一「4. 南大広遺跡 (B地区)」『第7回市原市文化財センター遺跡発表会要旨

平成3年度』1992



南大広遺跡 (B地区) 全体図 (浅利氏作成を一部改変)

10. 山田橋表通遺跡(亥の海道貝塚)

事業名 ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市山田橋字表通173-1番地

調査期間 平成3年3月1日～平成3年6月7日

調査面積 1,862㎡(本調査)

調査概要 前年度におこなわれた確認調査の結果、調査対象地には、その中央部に北側から南側にかけて埋没谷が存在し、この谷部にむかって調査区のほぼ全域にわたって縄文時代中期から後期の遺物包含層が分布し、その下に少なからず遺構の存在していること、さらに調査区の南西部には約300㎡にわたって貝塚が存在することが判明した。したがって調査手順としては、多量に排出される廃土の処理方法を考慮して調査区を二分し、まず調査区の西側と南側の平坦部および緩斜面部について遺物包含層と貝塚の調査をおこない、これが終了した時点でその下部に存在する遺構の調査をおこなった。そして谷部については、遺物包含層の内容と遺構の有無を調べるために谷に直行する方向(東西)に数本のトレンチを入れる調査方法をとった。

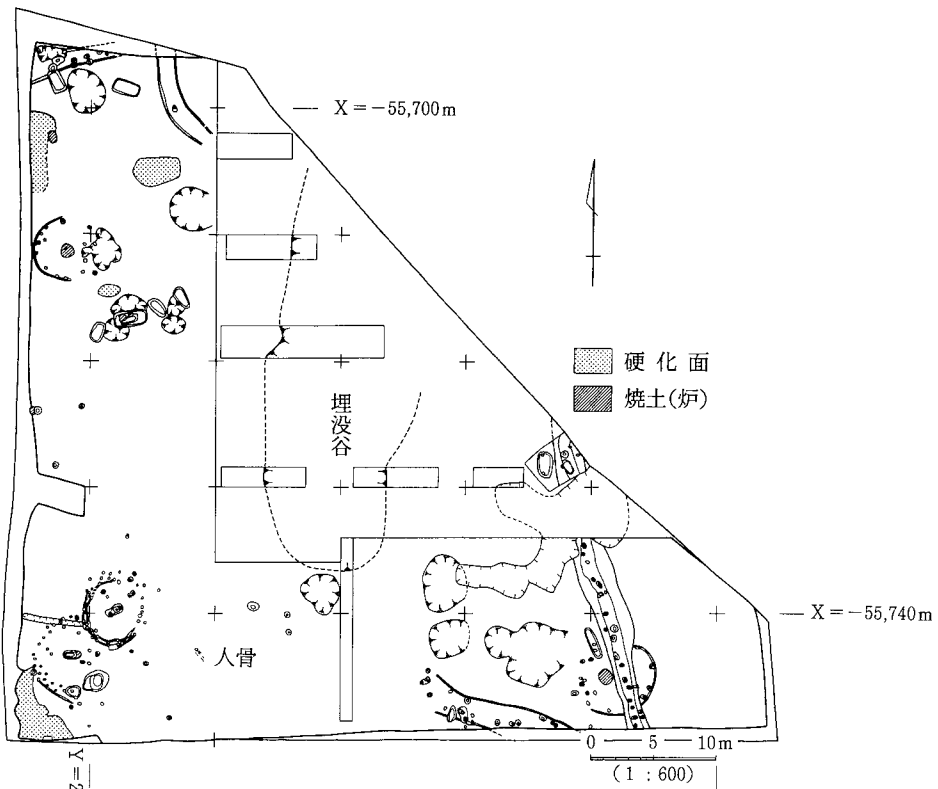
調査の結果、遺物包含層中からは縄文時代中期後葉から後期中葉までの時期を主体とする多量の土器・石器・土製品を、11地点の遺構内・遺構外に形成された小規模貝層とその周囲に広がる混貝土層からなる貝塚からは、貝類・魚類・獣類・堅果類(炭化物)などの自然遺物、埋葬人骨1体、石器・土製品・骨角貝製品を検出し、遺物包含層・貝層下部とその周辺からは、縄文時代後期前葉の住居址5軒、土坑10基、平安時代の住居址1軒、溝4条などの遺構とこれらに伴う土器を中心とした遺物を検出した。

特に本遺跡の調査では、縄文後期前葉、堀之内1式期のみに限られて形成された比較的良好的な堆積状況を示す小規模貝塚が検出され、調査・貝層サンプルの採取がおこなわれた。発掘調査終了後の詳細なサンプル分析の結果、マイワシ・マハゼ・キス・クロダイなどを主体とする微細な魚骨が多量に検出され、当該期の漁撈活動を考えるうえでの貴重なデータを得ることができた。特に、小型の魚種が非常に多く、遺跡内から土器片錘が多数出土していることを考え合わせると、網漁が活発におこなわれていたことが想定される。

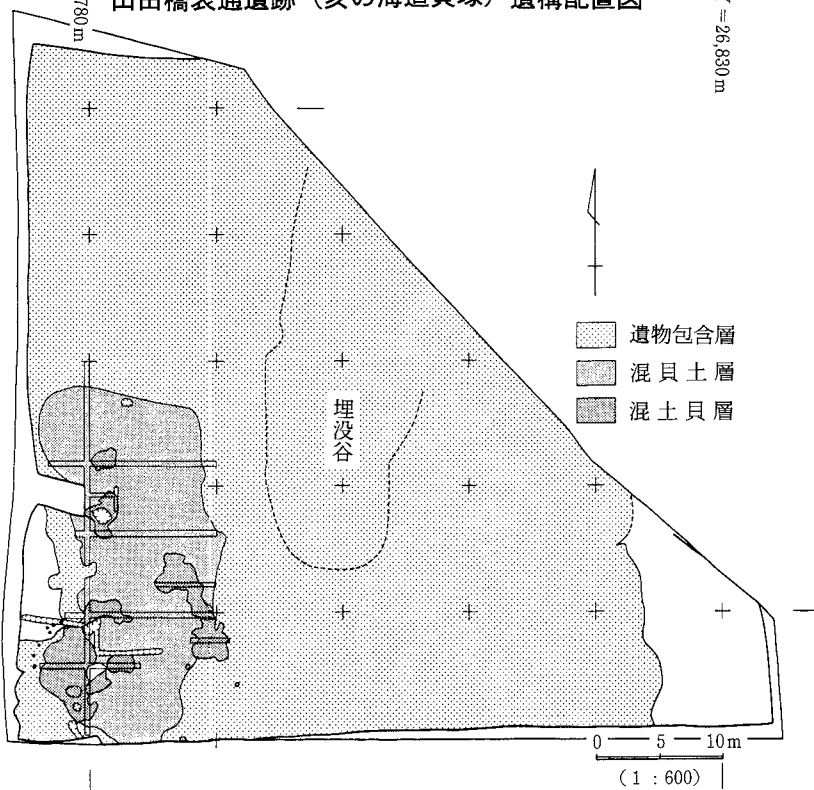
なお遺跡の名称は確認調査・本調査時点では、市の遺跡台帳に基づき山田橋表通遺跡として扱っていたが、これらの調査で貝塚をともなう縄文時代の集落遺跡としての性格が強いと判断されたため、整理・報告段階で山田橋亥の海道貝塚に変更した。詳細については、既刊の調査報告書を参照されたい。

(忍澤成視)

忍澤成視 「市原市山田橋亥の海道貝塚」『財団法人市原市文化財センター調査報告書 第48集』(1992)



山田橋表通遺跡（亥の海道貝塚）遺構配置図



山田橋表通遺跡（亥の海道貝塚）貝層および遺物包含層分布範囲

11. 姉崎六孫王原遺跡C区

事業名 マンション建設に伴う埋蔵文化財調査

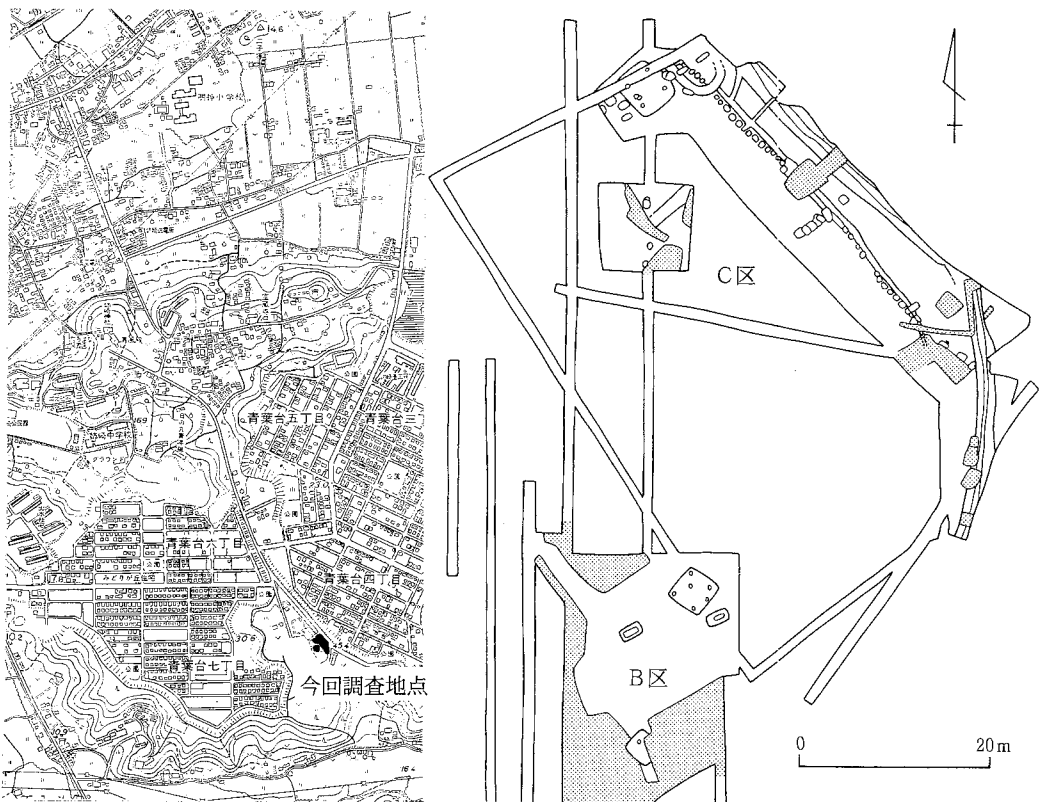
所在地 市原市姉崎字六孫王原3234地先

調査期間 平成3年5月1日～平成3年6月30日

調査面積 1,000㎡（本調査）

調査概要 六孫王原遺跡は、姉崎丘陵に位置しており、前方後方墳として著名な六孫王原古墳が存在することで知られている。台地北東部で毛尻遺跡、六孫王原遺跡A・B区が既に調査されており、弥生時代から古墳時代前期にかけての100基を越える住居跡と方形周溝墓が検出されている。今回調査されたのは、A区の南東、B区の北東にあたる。前年度に行われた確認調査でも、A区で検出されていたものと同様の道路状遺構が検出されていたが、今回の発掘調査で弥生時代後期末から古墳時代初頭に位置付けられる土坑3基、住居跡1基、古墳時代以降の方形周溝状遺構2基、溝状遺構5基、中世土壌10基が検出された。

溝状遺構のうち調査区域北東縁辺にあるものは、明確な踏み固めの面を持つ幅広いもので、鎌倉街道の一部の可能性も考えられる。（半田堅三）



12. 能満^{のうまん}分区遺跡群

事業名 市道166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満1780-12

調査期間 平成3年7月22日～平成3年9月20日

調査面積 857㎡（本調査）

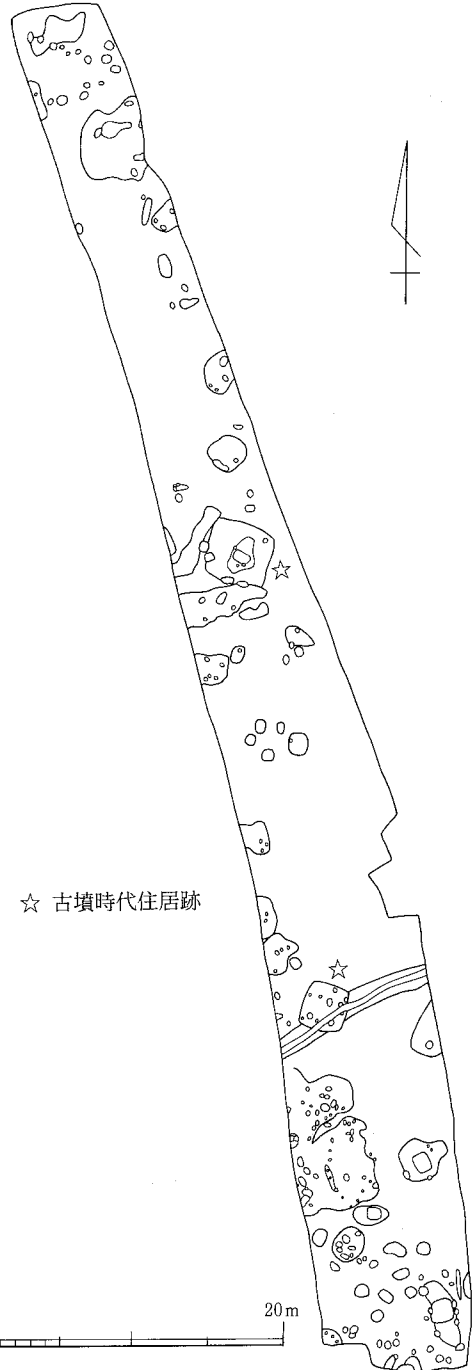
調査概要 前年度までに、南に続く舌状台地上で同じ道路改良に先立つ埋蔵文化財調査が行われ、縄文時代の住居跡、陥し穴、古墳時代前期の住居跡などが検出されている。今回の調査地点は台地がくびれる部分にあたり、西側ではすぐに急傾斜の谷となる。

中央部に30mほどの間隔をおいて古墳時代前期の住居跡が2基検出されている。北側のものは中央に中世以後の土壌があり、床面も軟弱で炉や柱穴も検出できなかった。南側のものは、遺構の南の一部を中世の溝で破壊されているが、炉の周辺には甗（こしき）など数点の土器が使用時の状態で検出された。

南端近くで縄文時代早期の炉穴が1基、南西端で縄文時代後期かと思われる住居跡のコーナー部分が検出された。このほかに調査範囲の全体、特に南側に集中して数多くの直径数10cmから3mほどの落ちこみが検出されている。一部は、木の根による攪乱もあるが、その大多数は覆土の色から縄文時代の住居跡の残存ピットや、小竪穴と考えられる。幾つかの小竪穴では、底面に1～2個のピットが有る。

調査範囲の北側で極端に遺構が少なくなり、台地の幅も狭くなることから、南側に展開する縄文時代、古墳時代の集落の限界が確認されたものと考えられる。

（半田堅三）



13. 根田^{ねだきおんぼら}祇園原貝塚（第5次調査）

事業名 国分寺中央公園整備に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市根田字祇園原464-2他

調査期間 平成3年10月1日～平成4年2月29日

調査面積 3,000㎡（確認・本調査）

調査概要 調査は公園の整備に先立つものであるため、歩道およびその他の公園施設の工事区域、影響範囲のみに限って実施された。これ以外の部分については盛土保存された。

今回の調査区内には、上総国分尼寺跡の調査で主要伽藍の西側部分の外郭の溝が検出されており、この位置の再確認と、祇園原貝塚の貝層分布範囲の確認、その他の遺構の存在の確認が調査の主たる目的である。

調査の結果、奈良・平安時代の遺構としては、前述の国分尼寺外郭の溝の南辺部分の東側に延びる一部分が、この南辺溝の南側で6軒の住居址を検出した。この内の1軒のカマド横からは並べられた状態で均整唐草文字瓦が2枚検出された。

弥生時代の遺構としては調査区の南端部から、環壕の一部（断面V字形、幅2m・深さ1.5m）、住居址9軒、人骨を伴う土壇墓1基が検出された。

縄文時代の遺構としては、早期の炉穴7基、後期の住居址17軒が検出された。また、埋葬人骨6体、埋葬犬1体も検出された。貝層は堀之内1式期の住居址内のものと、明褐色の土層を介してこの上に形成される面的に広がる加曾利B1式期のものが確認された。堀之内1式・加曾利B1式両時期の貝層の間に位置するこの明褐色の土層は、新期テフラ層とみられるもので、発掘所見（堆積状況）と出土遺物から時期のおさえられる事例として重要である。詳細は以下の文献を参照されたい。（忍澤成視）

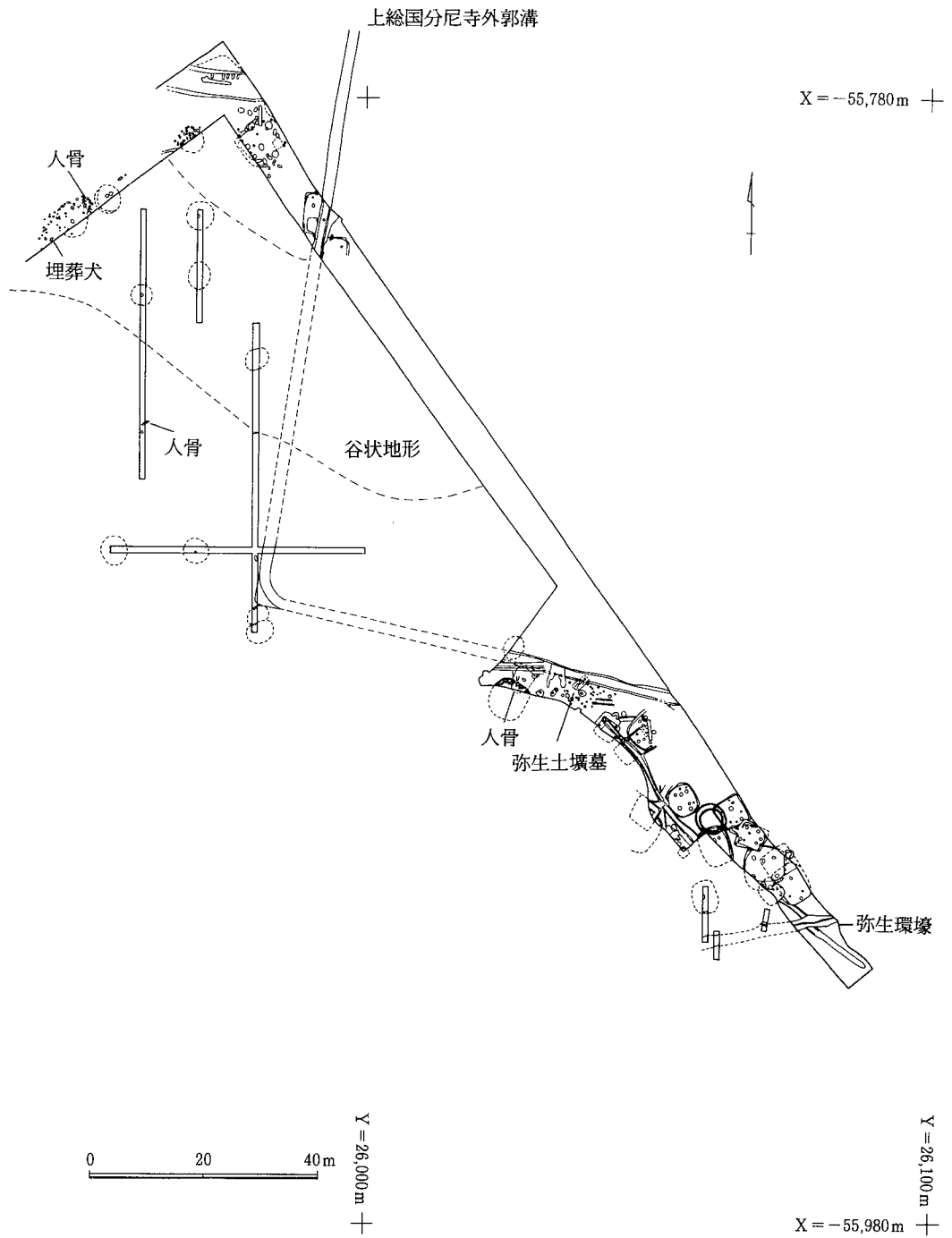
近藤 敏 「根田祇園原貝塚（5次調査）」

『第7回 財団法人市原市文化財センター遺跡発表会要旨 平成3年度』1992

近藤 敏 「房総半島の新期火山灰の降下について - 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図との比較と検証 -」『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』1993

近藤 敏 「新期テフラと古環境 - 千葉市・市原市の村田川下流地域 -」

『貝塚博物館紀要』21 1994



根田祇園原貝塚第5次調査検出遺構配置図

14. 中高根南名山遺跡

事業名 市道6018号線改良に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市中高根字恵方1335-2地先他

調査期間 平成3年9月20日～10月12日（確認）、10月14日～11月12日（本調査）

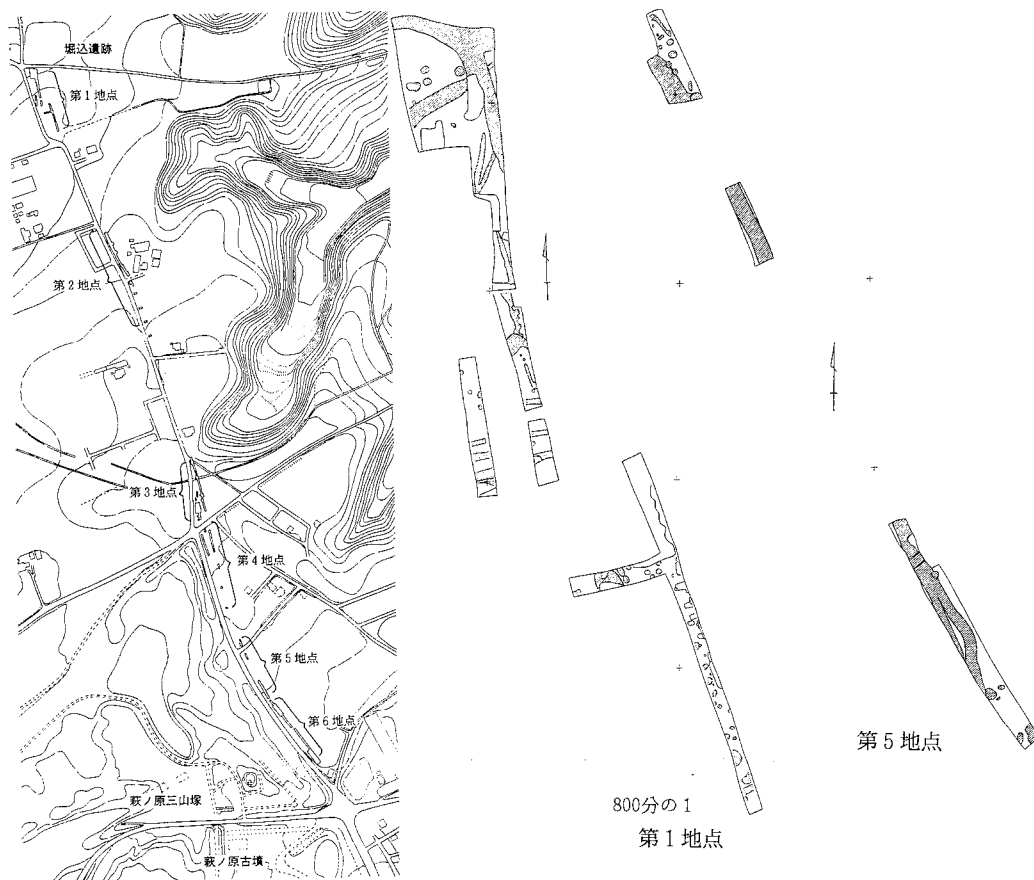
調査面積 1,890㎡のうち、189㎡（確認調査）、296㎡（本調査）

調査概要 養老川中流域西岸の台地上に位置する南名山遺跡の調査は、本年度は南北2地点について行われた。北区は、6本のトレンチで確認調査を行った。中央部から南にかけて攪乱が多かったが、北側のトレンチで、道路跡などが確認され、この間を拡張し本調査を行った。南区では3本のトレンチを設定し、道路状遺構、溝状遺構、土坑などが検出された。

道路状遺構は、幅約1.4～2.3mで中央部に踏み固められた面があり、南北約15mが確認された。北側で直行する幅広い溝状遺構が検出されている。

なお、報告書は既に刊行されており、詳細は下記を参照願いたい。（半田堅三）

『市原市中高根南名山遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第57集



15. 喜多^き仲^た台^{なか}遺^{だい}跡

事業名 市道48号線建設に伴う確認調査

所在地 市原市喜多字仲台60番地他

調査期間 平成4年2月1日～平成4年3月31日

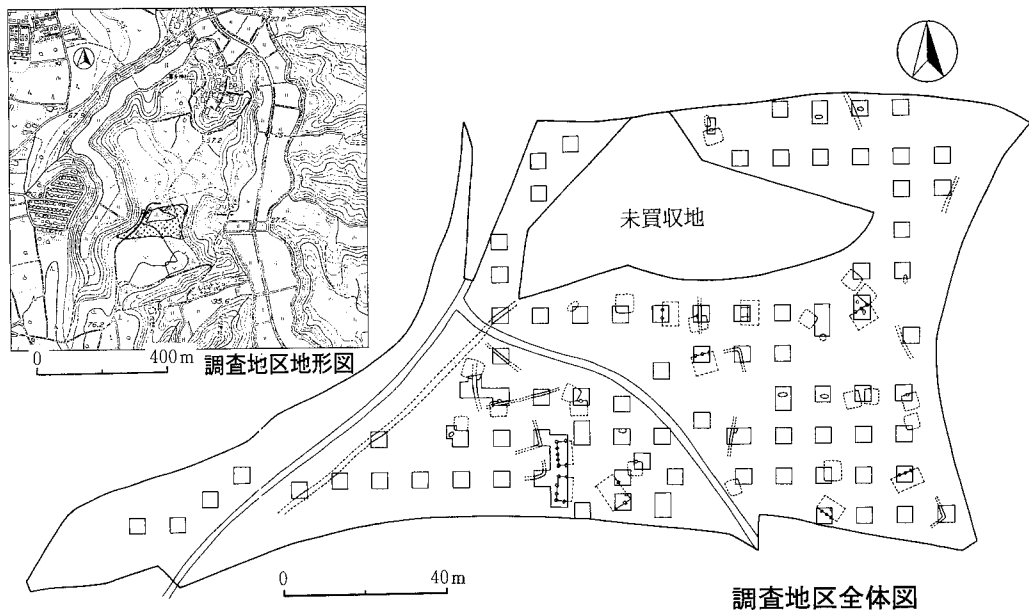
調査面積 14,200㎡のうち1,420㎡

調査概要 喜多仲台遺跡は、村田川上流域の支流によって形成された標高70～73mの舌状台地上に位置し、遺跡の東および西側は崖状（比高差40m）を呈している。

遺跡はこの台地上の平坦部分全域に広がっており、調査前から土師器の散布地として周知されていた。

今回の調査は、市道48号線建設に伴う確認調査で、調査面積16,400㎡のうち14,200㎡を調査対象（残り2,200㎡については未買収地のため未調査）とした。調査は、公共座標上に、主に4×4mのグリッドを5m間隔で設定し、対象面積の約10%にあたる1,420㎡を発掘した。なお、このうち284㎡について、旧石器確認の調査を実施した。

調査の結果、平安時代竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡9棟、方形周溝状遺構4基、時期不明溝状遺構9条、土坑12基を確認した。遺物については、大半が土師器片で、そのほか縄文土器片。縄文時代石器が出土した。なお、旧石器については、剥片1点を検出した。（小出紳夫）



IV 平成3年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
石本卯之助書翰	別府大学付属博物館	3. 4. 3
平成2年度市内遺跡発掘調査報告書	柏市教育委員会	
柏市埋蔵文化財調査報告書17	同上	
平成元年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要X	泉佐野市教育委員会	
三軒屋遺跡 89-4区の調査	同上	
三軒屋遺跡 89-6区の調査	同上	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第115集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
松山市文化財調査報告書20集	松山市教育委員会	
開館1周年記念収蔵品展展示図録 飾られた須恵器	松山市立埋蔵文化財センター	
法政大学多摩校地遺跡群IV E・D・B地区	法政大学多摩校地遺跡調査団	
財団法人印旛郡市文化財センター年報5・6	(財)印旛郡市文化財センター	3. 4. 6
(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第18・30・31・34・37集	同上	
古代からの文化遺産を次の世代へ 埋蔵文化財保護の手引き	港区教育委員会	
府中市郷土の森紀要第4号	田所真	
研究調査報告書第18集	浦和市立郷土博物館	
梵天長根遺跡	秋田市教育委員会	
鳩山町埋蔵文化財調査報告第5～8集	鳩山町教育委員会・境田遺跡調査会	
下総町内遺跡発掘調査報告1990年度	下総町教育委員会	
平成2年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	
久留里城址資料館年報11(平成元年度)	君津市立久留里城址資料館	
日本全国書誌No.1797	国立国会図書館	3. 4. 11
静川9遺跡	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	
九州文化史研究所紀要第36号 比較考古学部門関係抜刷集	九州大学九州文化史研究施設	
平成2年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	
浜松市博物館館報Ⅲ	浜松市博物館	
平成2年度市原市内遺跡発掘調査報告	市原市教育委員会	
国立歴史民俗博物館データベース利用申請の手引き	国立歴史民俗博物館	
国立歴史民俗博物館データベース検索の手引き	同上	
佐原市内遺跡群発掘調査概報V	佐原市教育委員会	
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VI 平成2年度	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	
鳩山町埋蔵文化財調査報告第9集	鳩山町教育委員会	3. 4. 12
京都大学文学部博物館図録第4冊	京都大学文学部考古学研究室	
平成2年度鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報	鎌ヶ谷市教育委員会	
千歳市文化財調査報告書X VI	千歳市教育委員会	
甦る埋蔵文化財第4集	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	
小田原市文化財調査報告書第32～35集	小田原市教育委員会	
南金原下遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	
四街道市内遺跡群発掘調査報告書1991	四街道市教育委員会	
ムゼイオン第36号	立教大学	
平成2年度東金市内遺跡群発掘調査報告書	東金市教育委員会	
平成2年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	3. 4. 17
埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ	三重県埋蔵文化財センター	
淡神文化財協会ニュース第11・12号	淡神文化財協会	
		3. 4. 18
		3. 4. 19
		3. 4. 20

書名	寄贈者	受入日
野田市埋蔵文化財調査報告書第4冊 平成2年度野田市内遺跡発掘調査報告 大分市歴史資料館年報1990 '90特別企画展 はるかなる長江中国武漢文物展	野田市教育委員会 同上 大分市歴史資料館 同上	3.4.20
平成2年度君津市内遺跡発掘調査報告書 向日市埋蔵文化財調査報告書第31集 平成2年度沼南町内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会 勸向日市埋蔵文化財センター 沼南町教育委員会	3.4.22 3.4.23
千葉県鴨川市埋蔵文化財分布地図 木更津市内遺跡発掘調査報告書 大畑台遺跡群確認調査報告書 千束台遺跡群確認調査報告書Ⅱ 請西遺跡群発掘調査報告書Ⅲ	鴨川市教育委員会 木更津市教育委員会 同上 同上 同上	
京都府遺跡調査概報第40冊 流山市埋蔵文化財調査報告Vol.13~15 第24回企画展 飛び道具 日本全国書誌No.1800	勸京都府埋蔵文化財調査研究センター 流山市教育委員会 小山市立博物館 国立国会図書館	3.4.24 3.4.30
前原町文化財調査報告書第35・36集 富津市内遺跡発掘調査報告書 内裏塚古墳群発掘調査報告書 神奈川県埋蔵文化財調査報告33 天然記念物総合診断報告書(第1報) 企画展 福井のやきもの	前原町教育委員会 富津市教育委員会 同上 神奈川県教育委員会 同上 愛知県陶磁資料館	3.4.11
日本旧石器時代から縄文時代への推移に関する構造的研究 釧路市北斗遺跡Ⅰ 釧路市武佐川3遺跡調査報告書 埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書平成2年度 名古屋大学古川総合資料館報告第6号 考古学等抜刷 名古屋大学文学部研究論集10 史学37 考古学抜刷第6集 秋葉山古墳群 磯子台遺跡	千葉大学文学部考古学研究室 釧路市埋蔵文化財調査センター 同上 千葉市教育委員会 名古屋大学文学部考古学研究室 同上 縄文文化研究会 同上	3.5.7 3.5.9
利倉貝塚 横浜市菅田利倉貝塚遺跡の調査 西田遺跡(その2) 東京都町田市本町田上遺跡調査報告書 本町田上遺跡第2次調査 特別展 音のかたち日本の音を探る 古代第91号 平成2年度港区指定文化財 東京大学文学部考古学研究室研究紀要第9号 紀要第4号 滋賀文化財だより3	同上 同上 同上 埼玉県立博物館 早稲田大学考古学会 港区教育委員会 東京大学文学部考古学研究室 勸滋賀県文化財保護協会 同上	3.5.10 3.5.13
勸群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第116集 関東の考古学 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第16・17集 我孫子市埋蔵文化財報告第15集 我孫子市埋蔵文化財小報第7集	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団 学生社 宇治市教育委員会 我孫子市教育委員会 同上	3.5.15 3.5.16

書名	寄贈者	受入日
伊場遺跡発掘調査報告書第7冊	浜松市博物館	3.5.17
千葉県文化財保護提要	千葉県教育庁文化課	3.5.18
白鷗1・2 都立白鷗高校内埋蔵文化財発掘調査報告書	都立学校遺跡調査会	3.5.21
川北遺跡	同上	
本郷元町 都立工芸高校内埋蔵文化財発掘調査概報	同上	
鉢山町 都立第一商業高校内埋蔵文化財発掘調査概報	同上	
日影町 都立竹早高校内埋蔵文化財発掘調査概報	同上	
埋蔵文化財発掘調査報告書第38・39集	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	
鞠智城跡発掘調査概報	熊本県教育庁文化課	3.5.23
熊本県文化財調査報告第109~111集	同上	
古墳時代の研究第6巻土師器と須恵器	雄山閣出版	3.5.27
武蔵大学人文学会雑誌第22巻第3・4号	武蔵大学人文学会	
仮家塚遺跡	三芳村教育委員会	
淡神文化財協会ニュース第13号	淡神文化財協会	
図説埼玉のあゆみ原始・古代編	(財)埼玉埋蔵文化財調査事業団	
一般国道1号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ	三重県埋蔵文化財センター	
成瀬西遺跡群発掘調査報告書	玉川文化財研究所	
上新城中学校遺跡	秋田市教育委員会	
浦和市東部遺跡群発掘調査報告書第14集	浦和市遺跡調査会	
浦和市遺跡調査会報告書第123・126・136・140~142集	同上	
年報8	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
埋蔵文化財ニュース69・70・72	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	3.5.28
平成2年度松戸市内遺跡発掘調査概報	松戸市教育委員会	
倉敷市埋蔵文化財報告第2集	倉敷市教育委員会	
倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第3集	同上	
貝塚博物館紀要第18号	千葉市立加曾利貝塚博物館	3.5.29
平成2年度袖ヶ浦町内遺跡群発掘調査報告書	袖ヶ浦町教育委員会	3.5.31
五社神社遺跡発掘調査報告書	綾瀬市教育委員会	
針塚古墳の発掘	松本市教育委員会	
松本市文化財調査報告No.88~92	同上	
研究紀要第13号	埼玉県立歴史資料館	
茂原市の文化財	茂原市教育委員会	
千葉県茂原市埋蔵文化財分布地図	同上	
大田区立郷土博物館紀要創刊号	大田区立郷土博物館	
特別展 ナベ・カマの歴史	同上	
三原田遺跡第2巻別添資料 中期前半期~後半初頭期篇	群馬県企業局	
湖西市文化財調査報告第24~27集	湖西市教育委員会	3.6.3
国道1号線潮見バイパス(湖西地区)宿南No.1・No.2遺跡確認調査報告書	同上	
国道1号線潮見バイパス(湖西地区)宿南No.9遺跡確認調査報告書	同上	
博古研究創刊号	茨城大学	
小砂焼	日本窯業史研究所	
横須賀市文化財調査報告書第21~23集	横須賀市教育委員会	3.6.4
五日市 写真でみる船橋1	船橋市郷土資料館	3.6.6
第34・35回郷土史講座講義録	同上	

書名	寄贈者	受入日
第56～58回展示資料観覧の手びき	船橋市郷土資料館	3. 6. 6
福井県埋蔵文化財調査報告第15集	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
神楽場遺跡・五反目遺跡	佐倉市教育委員会	
浜松市暇東遺跡発掘調査報告書	（財）浜松市文化協会	
泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅷ	泉南市教育委員会	3. 6. 10
図説日本の史跡第5巻 古代2	同朋舎出版	
長野市立博物館収蔵資料目録自然1	長野市立博物館	
各務原市資料調査報告書第14号	各務原市歴史民俗資料館	
三の原遺跡	立教大学学芸員課程研究室	
尼崎市文化財調査報告第22集	尼崎市教育委員会	
横穴式石室を考える	帝塚山考古学研究所	
第1～4回考古学におけるパーソナルコンピューター利用の現状	同上	
えびの市埋蔵文化財調査報告書第7集	えびの市教育委員会	
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第6号	秋田県埋蔵文化財センター	
秋田県文化財調査報告書第203～217集	同上	
秋田県埋蔵文化財センター年報9 平成2年度	同上	
秋田県埋蔵文化財センター10年のあゆみ	同上	
清水端遺跡	明野村教育委員会	3. 4. 11
普門寺遺跡	同上	
北原遺跡	同上	
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第148・152・156～159集	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	
考古遺物資料集第11集 西根町・松尾村	同上	
千葉県白井町の民家調査－Ⅱ 1990年度	白井町教育委員会	3. 6. 14
研究紀要8	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第93・118・119集	同上	
平成2年度芝山町内遺跡群発掘調査報告書	芝山町教育委員会	3. 6. 17
古代学研究所研究報告第2輯	（財）古代学協会	
柳之御所跡 姿を現した居館跡	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	
会津若松市文化財調査報告書第17号	会津若松市教育委員会	3. 6. 18
横小路周辺遺跡発掘調査報告書	鎌倉考古学研究所	3. 6. 19
杉久保中原遺跡	（仮称）国道412号線遺跡発掘調査団	
本郷池端中谷津遺跡	同上	
上今泉6丁目遺跡	同上	
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第100・121集	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	3. 6. 20
常陸府中矢口平右衛門家文書目録	石岡市教育委員会	3. 6. 21
古瀬戸小西遺跡	瀬戸市教育委員会	3. 5. 13
穴田第11号墳・種成第4号窯跡	同上	
穴田南第6号窯跡	同上	
静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要昭和62・63年度・平成元年度	静岡市教育委員会	
静岡市埋蔵文化財調査報告21	同上	
淡神文化財協会ニュース第14号	淡神文化財協会	3. 6. 24
平成2年度文化財少年教室記録集（第12集）	石岡市教育委員会	
鹿の子遺跡確認調査報告書	同上	
同志社高等学校理科館改築に伴う埋蔵文化財の調査	同志社大学校地学術調査委員会	

書名	寄贈者	受入日
松山遺跡第2次発掘調査	別府大学付属博物館	3. 6. 24
京都府埋蔵文化財情報第39号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	3. 6. 27
銚子市粟島台遺跡発掘調査報告書	粟島台遺跡発掘調査会	
銚子市余山貝塚発掘調査報告書	銚子市教育委員会	
粟島台遺跡発掘調査報告書	同上	
考古学研究室彙報第25号	立正大学文学部考古学研究室	
広島県の埋蔵文化財平成元年度	広島県教育委員会	
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第95・96集	同上	
平安京跡発掘調査概報	（財）京都市埋蔵文化財研究所	
北野廃寺・北白川廃寺発掘調査概報	同上	
鳥羽離宮跡発掘調査概報	同上	
京都市内遺跡試掘立会調査概報	同上	
日本考古学研究所集報X III	日本考古学研究所	3. 6. 29
千葉御茶屋御殿跡第3次調査概報	千葉市教育委員会	
リゾート等開発地域内の埋蔵文化財分布調査報告書	長野県教育委員会	3. 7. 2
（財）勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第4・5集	（財）勝田市文化・スポーツ振興公社	
田中屋重蔵伊勢へ行く	調布市郷土博物館	
國學院大學考古学資料館紀要第7輯	國學院大學考古学資料館	3. 7. 3
国学院大学考古学資料館要覧1990	同上	
ふるさと栃木県の歩み	（財）栃木県文化振興事業団	3. 7. 6
湯之奥金山遺跡第1次調査概報	湯之奥金山遺跡学術調査会	
常設展示解説 古代下野国の歴史	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	
第一回文学歴史散歩	陸沢町中央公民館	
遺跡ガイド1～4	高槻市教育委員会	3. 7. 8
高槻市文化財年報昭和63・平成元年度	高槻市立埋蔵文化財調査センター	
嶋上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要15	同上	
前原町文化財調査報告書第37集	前原町立伊都歴史資料館	
京都府遺跡調査概報第41～43冊	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	
御金蔵跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	3. 7. 9
小木城下館跡	同上	
西大塚遺跡	同上	
姫宮遺跡 第14次発掘調査報告書	同上	
花立遺跡	同上	
妙義東部遺跡群（Ⅱ）	同上	
宇田城址	同上	
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	
年報昭和63年度 Vol. 7	長野市立博物館	3. 7. 12
古代日本の七つの謎	文藝春秋	3. 7. 15
春の企画展 中世の民衆とまじない	広島県立歴史博物館	
春の企画展 瀬戸内の中国陶磁	同上	
秋の企画展 壘の歴史を探る 備後表	同上	
草戸千軒町遺跡 第42・43次発掘調査概要	同上	
愛知県陶磁資料館研究紀要9	愛知県陶磁資料館	
茂原市立木高橋家文書目録	茂原市立図書館	

書名	寄贈者	受入日
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第83・84集	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	3. 7. 15
鋸南町の文化財	鋸南町教育委員会	3. 7. 16
平成2年度調査埋蔵文化財展 レトロ・レトロの展覧会	(財)滋賀県文化財保護協会	3. 7. 17
小田部古墳の調査	浅利幸一	3. 7. 18
加茂C地点発掘調査報告書	同上	
平成2年度山武町内遺跡群発掘調査報告書	山武町教育委員会	3. 7. 19
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153・155集 紀要X I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書120	同上	
第7回企画展 地図・絵図でみる大宮の移り変わり	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
大宮市立博物館収蔵品目録 I	大宮市立博物館	3. 7. 22
大宮市立博物館研究紀要第3号	同上	
大宮の石造物 (2)	同上	
平成元年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	
埋蔵文化財年報 (2) 平成2年度	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所	
東海北陸自動車関連発掘調査概報 (2)	同上	
多賀城市文化財調査報告書第18・27集	多賀城市埋蔵文化財調査センター	
多賀城市文化財調査報告書第27集	同上	
四街道市の文化財第17号	四街道市教育委員会	
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1990	奈良市埋蔵文化財調査センター	
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成2年度	同上	
平城京東市跡推定地の調査IX 第11次発掘調査概報	同上	
淡神文化財協会ニュース第15号	淡神文化財協会事務局	3. 7. 24
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊	(財)京都市埋蔵文化財研究所	3. 7. 25
港区No.91遺跡	東京都港区立港郷土資料館	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第117集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
第9回特別展北九州の国々と文化 弥生古鏡を掘る	北九州市立考古博物館	3. 7. 26
貝サンプル整理マニュアル	(財)千葉県文化財センター	3. 7. 30
貝サンプル整理マニュアル 別冊解説と資料	同上	
千葉県立中央博物館研究報告人文科学第1巻第3号	千葉県立中央博物館	
市原・熊野神社裏遺跡	妙見山麓遺跡調査会	
京都府遺跡調査概報第44・45冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
北谷王神ノ木古墳塚本古墳	松山市立埋蔵文化財センター	
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ 平成元年～2年度	同上	
長野県埋蔵文化財センター紀要2・3・6・7	(財)長野県埋蔵文化財センター	
お伊勢山遺跡の調査第2部 旧石器時代	早稲田大学所沢校地文化財調査室	3. 7. 31
(財)長生郡市文化財センター調査報告第9～11集	(財)長生郡市文化財センター	
長生郡市文化財センター年報No.5 平成元年度	同上	
指定有形文化財修理報告書佛像彫刻編	市原市教育委員会	
ふなばしの歴史と文化財1991	船橋市教育委員会	3. 8. 2
船橋市民家分布調査報告第8次本町・湊町地区	同上	
印内台遺跡第7次・8次調査報告書	同上	
港郷土資料館館報9平成2年度版	港区立港郷土資料館	3. 8. 3
大阪市立博物館報1991 No.30	大阪市立博物館	

書名	寄贈者	受入日
筑波大学先史学・考古学研究第2号	筑波大学歴史人類学系考古学研究室	3.8.3
筑波大学先史学・考古学研究調査報告5・6	同上	
黒笹第33・39号竪穴発掘調査報告書	三好町立歴史民俗資料館	3.8.5
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1990年度	豊中市教育委員会	
蛭池東遺跡発掘調査報告書	同上	
京都府埋蔵文化財論集第2集 創立10周年記念誌	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
日本の歴史2 倭人争乱	集英社	3.8.6
岩手県文化財調査報告第90集	岩手県教育委員会	3.8.7
大館遺跡群 平成2年度発掘調査概要	盛岡市教育委員会	
志波城跡 平成2年度発掘調査概報	同上	
上平遺跡群(上猪去遺跡)平成2年度発掘調査概報	同上	
長岡京市文化財調査報告書第27冊	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	
長岡京市埋蔵文化財センター年報平成元年度	同上	
大阪府下埋蔵文化財研究会(第24回)資料	(財)大阪文化財センター	3.8.8
浦和市内遺跡発掘調査報告書第16集	浦和市遺跡調査会	
浦和市遺跡調査会報告書第128・130・139・144・147・148集	同上	
京都造形芸術大学1992	京都造形芸術大学	3.8.19
湯谷たたら	東城町教育委員会	
鷺ノ山横穴墓A群発掘調査報告書	八日市場市教育委員会	
真光寺・広袴遺跡群V	鶴川第二地区遺跡調査会	
京都府埋蔵文化財情報第40号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
神崎町史 史料集金石文等	神崎町教育委員会	
岡田越の山横穴墓群岡田おこり塚(十三塚)発掘調査報告書	寒川町教育委員会	3.8.21
大阪文化財研究創刊号	(財)大阪文化財センター	3.8.22
図録 大坂城跡の調査1	同上	
昭和63・平成元年度瀬戸市埋蔵文化財年報	瀬戸市教育委員会	
大垣市文化財調査報告書第16~19集	大垣市教育委員会	3.8.26
福島県文化財調査報告書第223・237・238・254集	福島県教育委員会	
梅坪遺跡第4次調査概要報告	豊田市教育委員会	
成田市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書	成田市教育委員会	
福島県文化財調査報告書第245集	福島県教育委員会	
深川市内園3遺跡	深川市教育委員会	3.8.27
北大内遺跡・矢倉遺跡	一宮町教育委員会	
甲斐国分寺跡	同上	
筑前原壘跡発掘調査報告	同上	
大原遺跡発掘調査概報	同上	
君津郡市文化財センター年報No.8平成元年度	(財)君津郡市文化財センター	3.8.29
君津郡市文化財センター年報9平成2年度	同上	
君津郡市文化財センター研究紀要IV	同上	
沼津市博物館紀要15	沼津市歴史民俗資料館	3.8.31
沼津市歴史民俗資料館資料集9	同上	
特別展 風の世界	同上	
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第24・26集	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	
牛岡遺跡	同上	

書名	寄贈者	受入日
新掘遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	3. 8. 31
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報VI (平成元年度事業概要)	同上	
いわき市教育文化事業団年報1 昭和53年度～平成元年度	(財)いわき市教育文化事業団	3. 9. 3
いわき市教育文化事業団研究紀要第2号	同上	
いわき市埋蔵文化財調査報告第28～30冊	同上	
大畑遺跡群の概要	同上	3. 9. 4
長楽寺横穴墓群D地区発掘調査報告書	睦沢町立歴史民俗資料館	3. 9. 5
明治大学考古学博物館館報No. 6	明治大学考古学博物館	3. 9. 6
明治大学考古学博物館蔵品図録2	同上	
淡神文化財協会ニュース第16号	淡神文化財協会	3. 9. 9
秋田城 平成2年度秋田城跡発掘調査概報	秋田城跡調査事務所	3. 9. 10
寺内焼窯跡	同上	
茨城県教育財団文化財調査報告第61～69集	(財)茨城県教育財団	3. 9. 17
年報10平成2年度	同上	
鳥取県教育文化財団調査報告書26	(財)鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター	
文化財調査出土遺物仮収納保管業務平成2年度発掘調査概要	(財)滋賀県文化財保護協会	
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書X VIII-2・4～7	同上	
金剛寺・後川遺跡発掘調査報告書II	同上	
大宮遺跡発掘調査報告書	同上	
中北遺跡発掘調査報告書	同上	
服部遺跡発掘調査報告書II (本文編図版編)	同上	
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書VII-1～3	同上	
鹿の子遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	3. 9. 18
日立市文化財調査報告第24集	同上	
玉造城跡	同上	
山武考古学研究所年報No. 8 平成元年度	同上	
専光寺付近遺跡 平成2年度発掘調査概報	同上	
古海松塚古墳群 平成2年度発掘調査概報	同上	
妙義町の遺跡(1)	同上	
第25回企画展 世界から見た小山	小山市立博物館	3. 9. 19
鳩山町埋蔵文化財調査報告第10集	鳩山町教育委員会	3. 9. 24
開館10周年記念第28回特別展 千曲川	長野市立博物館	3. 9. 25
二才山調査概報	二才山調査団	
上総山王山古墳	市原市教育委員会	
政所跡	鎌倉考古学研究所	3. 9. 26
笹目遺跡発掘調査報告書	同上	
国指定史跡若宮大路遺跡発掘調査報告書V	同上	
奈良国立文化財研究所年報1990	奈良国立文化財研究所	3. 9. 30
群馬町埋蔵文化財調査報告第30～32集	群馬町教育委員会	
タイの土器作り	淡神文化財協会	
湯之奥金山遺跡第2次調査概報	(財)山梨文化財研究所	
守山市文化財調査報告書第37冊	守山市立埋蔵文化財センター	
名古屋博物館研究紀要第14巻	名古屋博物館	3. 10. 3
青山史学第12号	青山学院大学文学部史学科研究室	3. 10. 4

書名	寄贈者	受入日
第9回近畿地方埋蔵文化財研究会資料	（財）大阪文化財センター	3. 10. 7
第15回特別展 大宮の文化財	大宮市立博物館	3. 10. 8
大宮の教育史調査報告書（VI）	同上	
盛岡城跡Ⅰ	盛岡市教育委員会	3. 10. 14
第13回特別展 お茶とくらし 関連図録	浜松市博物館	
研究室活動報告25・26	熊本大学文学部考古学研究室	
徳島県埋蔵文化財センター年報V○1.2 1990年度	（財）徳島県埋蔵文化財センター	
向日市埋蔵文化財調査報告書第19・32集	（財）向日市埋蔵文化財センター	
谷津台遺跡	山武考古学研究所	3. 10. 17
第9回特別展図録 古絵図にみる江戸時代の大分	大分市歴史資料館	
（財）印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第28・38・42・44～50・53・54集	（財）印旛郡市文化財センター	
'91特別展 古代の出雲と九州海流に乗って、山脈を越えて	島根県立八雲立つ風土記の丘	3. 10. 18
大阪府立弥生文化博物館図録2	大阪府立弥生文化博物館	3. 10. 21
愛知県埋蔵文化財情報6 平成元年度	（財）愛知県埋蔵文化財センター	
財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報平成2年度	同上	
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18・20～25・36集	同上	
小山市立博物館報第8号 平成2年度版	小山市立博物館	3. 10. 24
三重県埋蔵文化財調査報告87-3・91	三重県埋蔵文化財センター	
平成2年度三重県埋蔵文化財センター年報2	同上	
一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ	同上	
一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ	同上	
寺原B遺跡発掘調査概要	同上	
高山歴史学研究所文化財調査報告書第1冊	高山歴史学研究所	3. 10. 25
北九州市埋蔵文化財調査報告書第88・95・97・100～111集	（財）北九州市教育文化事業団	
埋蔵文化財調査室年報7 平成元年度	同上	
研究紀要第5号	同上	
淡神文化財協会ニュース第17号	淡神文化財協会	3. 10. 28
平成2年度国庫補助事業発掘調査報告書	堺市教育委員会	
堺市文化財調査概要報告第6～20冊	同上	
下鶴間甲一号遺跡	下鶴間甲一号遺跡調査団	
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第110集	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	3. 10. 30
戦国曾候乙墓出土文物図案選	矢島秀朗	3. 10. 31
寺の谷3号墳発掘調査報告書	小笠町教育委員会	3. 11. 2
平成3年度特別企画展 貝塚 縄文ムラの風景	富山県埋蔵文化財センター	3. 11. 5
大島	大島町教育委員会	3. 11. 12
島の史跡 大島編・続大島編	同上	
大島町野増遺跡・下高洞遺跡D地区・和泉浜C地点遺跡	同上	
鉄砲場岩陰遺跡	同上	
三重県埋蔵文化財調査報告94-1	三重県埋蔵文化財センター	
古代第92号	早稲田大学考古学会	
埋蔵文化財調査報告6 平成2年度	東京都練馬区教育委員会	
練馬城址遺跡調査報告書	同上	
東早淵遺跡第4地点	同上	
中村橋遺跡	同上	

書名	寄贈者	受入日
中宮遺跡	同上	3. 11. 12
真光寺・広袴遺跡群VI	鶴川第二地区遺跡調査会	
特別展図録 絵画にみる海苔養殖	大田区立郷土博物館	
東海大学校地内遺跡調査団報告2	東海大学校地内遺跡調査団	3. 11. 13
千葉県文化財センター年報No.16 平成2年度	財千葉県文化財センター	3. 11. 14
研究連絡誌第31・32号	同上	
千葉県文化財センター調査報告第188～200集	同上	
淡神文化財協会ニュース第18号	淡神文化財協会	3. 11. 18
元町遺跡発掘調査概報	同上	
柳杭遺跡発掘調査報告書	同上	
調査年報3 平成2年度	財北海道埋蔵文化財センター	
財北海道埋蔵文化財センター調査報告書第68～71集	同上	
君津郡市文化財センター年報9 平成2年度	財君津郡市文化財センター	
弥生	光文社	
国立歴史民俗博物館研究報告第29～34集	国立歴史民俗博物館	3. 11. 19
房総風土記の丘講演会資料 古代製鉄研究の現状	千葉県立房総風土記の丘	3. 11. 20
鏡伝池遺跡発掘調査概要報告	財枚方市文化財研究調査会	3. 11. 25
枚方市文化財年報X 1989	同上	
特別展 武士と信仰	千葉県立総南博物館	
第9回小さな展覧会	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	
京都府埋蔵文化財情報第41号	同上	
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター年報5 平成元年度	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	3. 12. 2
三重県埋蔵文化財調査報告101-5	三重県埋蔵文化財センター	
第5回企画展 海をわたってきた文化	行田市郷土博物館	
季刊創造の世界第80号	小学館	
日本の歴史3 古代王権の展開	集英社	
図説 ふじさわの歴史	藤沢市	
ワイド版 歴史資料集千葉県版	新学社	
THE RISE OF A GREAT TRADITION	文化庁	
桜井市内埋蔵文化財1990年度発掘調査報告書1・2	桜井市立埋蔵文化財センター	3. 12. 4
阿部丘陵遺跡群	同上	
佐賀県文化財調査報告書第100・103・104集	佐賀県教育委員会	
愛知県陶磁資料館研究紀要10	愛知県陶磁資料館	3. 12. 9
国立歴史民俗博物館館蔵資料概要	国立歴史民俗博物館	
国立歴史民俗博物館映像・音響資料概要	同上	
邪馬台国時代の東日本	同上	
草戸千軒町遺跡第44・45次発掘調査概要	草戸千軒町遺跡調査研究所	
君津市史史料集I (古代・中世・近世I)	君津市教育委員会	3. 12. 11
日本全国書誌No.1833	国立国会図書館	
戸張一番割遺跡	柏市教育委員会	3. 12. 12
千葉県文化財センター年報No.16 平成2年度	財千葉県文化財センター	
武蔵大学人文学会雑誌第23巻第1号	武蔵大学人文学会	
埋蔵文化財センター年報第1号 (平成3年度)	財栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	3. 12. 17
栃木県文化振興事業団10年のあゆみ	同上	

書名	寄贈者	受入日
栃木県埋蔵文化財調査報告書第106・111・114集	栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	3. 12. 17
栃君津郡市文化財センター発掘調査報告書第45・46・48・49・53・55・56・58～60集	栃君津郡市文化財センター	
君津郡市文化財センター研究紀要V	同上	
10年のあゆみ	同上	
昔むかしの上総	同上	
北野廃寺	岡崎市教育委員会	3. 12. 19
特別展 愛知の銅鐸	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館	
同者遺跡発掘調査報告書	一宮市博物館	
ムゼイオン第37号	立教大学	3. 12. 20
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88・96～105集	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
研究紀要第8号	同上	
年報11 平成2年度	同上	
古墳時代の研究第9巻 古墳Ⅲ埴輪	雄山閣出版	4. 1. 10
長野市立博物館収蔵資料目録自然2	長野市立博物館	4. 1. 13
佐倉史断想	高橋健一	
芳桂院 戦国期東国の一女性とその周辺	同上	
総社市埋蔵文化財調査年報1 (平成2年度)	総社市教育委員会	
助向日市埋蔵文化財センター年報 都城3	助向日市埋蔵文化財センター	
長崎県文化財調査報告書第99集	長崎県教育委員会	
本奈遺跡発掘調査報告書 (第3地点)	浦和市遺跡調査会	
淡神文化財協会ニュース第19号	淡神文化財協会	
埼玉考古学論集 設立10周年記念論文集	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
宇治市文化財調査報告書第2冊	宇治市教育委員会	
宇治二子山古墳とその時代	同上	
考古学雑誌第77巻第2号	日本考古学会	
沢田遺跡	茨城県教育財団	4. 1. 18
人物埴輪を語る	さきたま出版会	4. 1. 20
総社市埋蔵文化財発掘調査報告9	総社市教育委員会	4. 1. 21
博古研究第2号	茨城大学	4. 1. 27
多賀城市文化財調査報告書第26集	多賀城市埋蔵文化財調査センター	
大分市埋蔵文化財調査年報1 平成元年度	大分市教育委員会	
下郡遺跡群	同上	
年報9・10	群馬県埋蔵文化財調査事業団	
助群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第123集	同上	3. 5. 10
巨福山建長寺境内遺跡	鎌倉考古学研究所	
フゴッベ貝塚	助北海道埋蔵文化財センター	3. 5. 13
神奈川県立埋蔵文化財センター年報10 平成2年度	神奈川県立埋蔵文化財センター	
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告21	同上	
千葉県立房総風土記の丘年報14 平成2年度	千葉県立房総風土記の丘	
世田谷区史料叢書第6巻	世田谷区立郷土資料館	4. 1. 29
大場美佐の日記3	同上	
大阪府下埋蔵文化財研究会 (第25回) 資料	助大阪文化財センター	4. 2. 3
小の原遺跡・戸入障子暮遺跡	助岐阜県文化財保護センター	
九州歴史資料館年報平成2年度	九州歴史資料館	

書名	寄贈者	受入日
九州歴史資料館研究論集16	九州歴史資料館	4. 2. 3
萱野遺跡下田中遺跡矢場遺跡	群馬県企業局	4. 2. 5
東京都埋蔵文化財センター蔵書目録 I	（財）東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	
東京都埋蔵文化財センター年報11	同 上	
東京都埋蔵文化財センター研究論集IX・X	同 上	
東京都埋蔵文化財センター調査報告第12集	同 上	
南北朝史100話	田所真	4. 2. 12
千葉県銚子市西町遺跡発掘調査報告Ⅱ	銚子市教育委員会	
大阪府立弥生文化博物館図録 3	大阪府立弥生文化博物館	
京都府埋蔵文化財情報第42号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	
白石大御堂遺跡	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	
第4回歴史の華ひらく泉南シンポジウム 中世の都市と農村	泉南市教育委員会	4. 2. 17
国府台2 博物館学課程年報	和洋女子大学博物館学研究室	4. 2. 18
鳩山町埋蔵文化財調査報告第11・12集	鳩山町教育委員会	4. 2. 20
いま信濃の歴史はよみがえる 10年の成果と歩み財団法人設立10周年記念誌	（財）長野県埋蔵文化財センター	
松山市文化財調査報告書24	松山市立埋蔵文化財センター	
土浦市立博物館紀要第3号	土浦市立博物館	4. 2. 25
国立歴史民俗博物館研究報告第35・36集	国立歴史民俗博物館	
静岡県文化財調査報告書第42集	後藤建一	
島原藩橋津組大庄屋日記(1)	別府大学附属博物館	4. 2. 27
葛飾区遺跡調査報告第4集	葛飾区遺跡調査会	
葛飾区遺跡調査会調査報告第10集	同 上	
新館遺跡発掘調査概報	郡山市教育委員会	4. 3. 2
水無遺跡Ⅲ	同 上	
郡山東部11	同 上	
河内平野遺跡群の動態Ⅱ	（財）大阪文化財センター	
淡神文化財協会ニュース第20号	淡神文化財協会	
平成3年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	4. 3. 3
研究連絡誌第33号	（財）千葉県文化財センター	
昭和61・62年度京都市埋蔵文化財調査概要	（財）京都市埋蔵文化財研究所	4. 3. 5
唐崎台遺跡	市原市教育委員会	
1989年度（平成元年度）文化財講座資料集1・2	（財）大阪文化財センター	4. 3. 6
平成2・3年度文化財講座資料集	同 上	
大坂城跡の発掘調査1	同 上	
大阪文化財研究第2号	同 上	
丹上遺跡（その3・5）調査の概要	同 上	
福田遺跡（その2）調査の概要	同 上	
日置荘遺跡（その5）調査の概要	同 上	
太井遺跡（その4ほか）日置荘遺跡（その1-2）調査の概要	同 上	
日置荘遺跡（その2-2・その6）調査の概要	同 上	
小阪遺跡（南その1）調査の概要	同 上	
小阪遺跡（南その2）調査の概要	同 上	
小阪遺跡（南その2-2）調査の概要	同 上	
小阪遺跡（その6-3）調査の概要	同 上	

書 名	寄 贈 者	受 入 日
小阪遺跡(その7-3)調査の概要	(財)大阪文化財センター	4. 3. 6
小阪遺跡(その8、8-2)調査の概要	同 上	
小阪遺跡(その9)調査の概要	同 上	
池島・福万寺遺跡発掘調査概要	同 上	
若宮大路遺跡発掘調査報告書VI	鎌倉考古学研究所	4. 3. 11
考古学の現在新しい生活環境づくりへの試み	福岡市埋蔵文化財センター	
福岡市埋蔵文化財センター年報第10号	同 上	
長竹遺跡	上粕屋厚木線発掘調査団	
三島市文化財年報第2・3号	三島市教育委員会	
夏梅木遺跡群	同 上	
上阿弥陀遺跡	同 上	
安久杵形遺跡	同 上	
城之越遺跡	三重県埋蔵文化財センター	
三重県埋蔵文化財調査報告87-7~12・89・101-3	同 上	
常設展示図録 芦屋の歴史と文化財	芦屋市立美術館	4. 3. 12
芦屋市文化財調査報告第13・18~21集	同 上	
上町遺跡D地点発掘調査報告書	古川町教育委員会	4. 3. 16
大分県文化財調査報告書第81・82・84・85輯	大分県教育委員会	
大分県内遺跡群細分布調査概要9・10	同 上	
誠和神社裏遺跡陣が原辻原遺跡上野第1遺跡(東原地区)	同 上	
妙見城遺跡(北地区)小坂遺跡広瀬遺跡飯田二反田遺跡	同 上	
一般国道10号宇佐バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報IV	同 上	
向野遺跡II	同 上	
植田市遺跡IV	同 上	
佐寺原・原田・岩塚・治別当遺跡群	同 上	
庄ノ原地区遺跡群	同 上	
京都府遺跡調査概報第46冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	4. 3. 19
香川県埋蔵文化財調査年報平成2年度	香川県教育委員会	
道下遺跡	同 上	
川津元結木遺跡	同 上	
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成2・3年度	同 上	
日本馬具大鑑第1~4巻	日本中央競馬会	4. 3. 23
福島市埋蔵文化財報告書第22~33・35~37・39~43・45・46集	(財)福島市振興公社	4. 3. 24
発掘された福島市の歴史2	同 上	
木更津市内遺跡発掘調査報告書	木更津市教育委員会	4. 3. 30
請西遺跡群発掘調査報告書IV	同 上	
京都文化博物館調査研究報告第6~8集	京都文化博物館	
真間手児奈の原風景(和洋国文研究第27号抜刷)	寺村光晴	

市原市文化財センター年報

(平成3年度)

平成7年11月15日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印刷 三陽工業株式会社
〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348